

耶穌降生千八百八十四年
米國聖書會社

舊約
聖書

出埃及記

明治十七年

日本橫濱印行

02-KYU

海老澤文庫



以色列族
旅行之圖

おはせて之を苦む彼等ハロのためハ府庫の邑ビトムとラメセスを建たり然るハイスラエルの子孫ハ苦むるハ曉ひて増殖たれバ皆みれを懼れたりエロプト人イスラエルの子孫を驅く動作かしめ言幸き力役をもて彼等を去て苦みて生を度らしむ即ち和泥作飯および田圃の諸の工ハはたらかしめけるガ其働あしめし工作ハ皆嚴うりきエロプトの王又ハブルの産婆ツフラと名くる者トブツと名くる者の二人ハ諭してまいひけるハ汝等ハブルの婦女のためハ取生をあす時ハ床の上を見てろの子若男子あらをこそを殺せ女子あらバ生しおくべしと然ハ産婆神を畏れエロプト王の命せしごとく爲すして男子をも生しおけり大エロプト王産婆を召て之ハいひけるハ汝等あんろ此事をあし男子を生しおくやハ産婆ハロハ言けるハヘブルの婦ハエロプトの婦のごとくならず彼等ハ健して産婆のあをらハ至らぬ前ハ産をゐる

ありト是ハよりて神ろの産婆等ハ恩を得ぞこしたまへり是ハおいて民増ゆきて甚だ強くなりぬ産婆神を畏れたるによりて神ろはらのためハ家を成たまへり三期在まろハハロの凡の民ハ命じていふ男子の生るあらバ汝等これを悉く河ハ投いさま女子ハ皆生しおくべし

一愛ハレビの家の一箇の人往てレビの女を娶きリニ女妊みて男子を生みろの美きを見て三月のあひだこれヲ置せシガ三すでにみれを匿そあたひざるにいたりけきを箱舟を之びために取て之に瀝青と樹脂を塗り子をろの中に納てこれを河邊の葦の中に置りろの封道に立てろの如何にるかを窺ふ茲にハロの女身を洗んどて河にくだりろの婢等河の傍にあゆび彼葦の中に箱舟あるを見て使女をつろにしてこれを取きたらまめ六みきを啓きてろの子のをるを見る嬰兒するハち啼く彼みれを憐

みていひけるは是のヘブル人の子ありど七時にその姉バロの女にひけるは我ゆきてヘブルの女の申より此子をなんぢのため養ふべき乳母を呼きたらんハバロの女往よど之をいひければ女子すなわち往てその子の母を呼きたるハバロの女をいひけるは此子をつとゆきてわがために之を養へ我がの値をなんぢにせんと婦するわちその子を取てこを養ふ十斯てその子の長ずるにおよびて之をバロの女の所にたづさへもきければすなりちこれが子となる彼らの名をモーセ(援出)と名けて言ふ我こそを水より援いだせしに因るとは技にモーセ生長におよびて一時いでよろの兄弟等の所にいたりその重荷を負ふを見しが會一箇のエロプト人の一箇のイスラエル人即ちその兄弟を撃つを見たきを右左を視まひして人のをらざるを見てそのエロプト人を撃ころし之を沙の中に埋め匿せりまた次の日また出て二

人のヘブル人の相争ふを見たきバロの曲き者にむらひ汝なんぢ汝の隣人を撃つやといふに言彼いひけるは誰が汝を立てわきらの君とし判官としたるや汝のエロプト人をころせしごとく我をも殺さんとするやど是をおいてモーセ懼れてその事かならず知れたるからんとおもへりハバロ此事を聞てモーセを殺さんともどめければモーセすあひちバロの面をさけて逃げのびエデアの地の住り彼井の傍お坐せり其エデアの祭司お七人の女子ありしが彼等來りて水を汲み水鉢お盈て父の羊群お飲はんとしけるおを牧羊者等きたりて彼らを逐はらひたればモーセ起わがりて彼等をたすたるの羊群お飲ふま彼等らの父リウエルお至きて時父言けるは今日はおんぢら何うりく速わうへりしやまおきし亦われらのために水を多く汲て羊群お飲しめたり羊父女等お

いひけるは彼は何處どこををるや汝等あなた等あんろうの人を遣つかてきたりしや彼をよびて物を食ためよと三モーセこの人どよも居ゐることを好このめり彼をすまはちろの女子むすめチツポラをモーセとお與あづかふ三彼の男子をを生うまじければモーセの名なをケルンヨムと名なけて言いふ我が異邦いこくを客きやくとありををきたありと三斯このて時ときをふる程ほどおエロプトの王おう死しりイヌラエルの子孫こゝろの勞役らうやくの故ゆゑおよりて歎なげき號なづふあうの勞役らうやくの故ゆゑおよりて號なづふところの聲こゑ神かみお達いたりけきを言い神かみろの長帥ちやうしを聞き神かみろのアブラハム、イサク、ヤコブのあはしたる契約けいやくを憶おもへ三神かみイスラエルの子孫こゝろを答こたへ神かみ知しめしたまへり

第二節 モーセの妻つまの父ちちあるミデアンの祭司かみエテロの群ぐんを救すくひをり去いはるの群ぐんを曠野くわうやの奥おくにみちびきて神かみの山やまホレブに至いたるおニエホバの使者つかひ赫あつの裏うらの火ひ獄ごくの中なかにて彼をあらわらるを彼を見るをお赫あつ火ひに燃もきともろの赫あつ燧たいサエモーセいひけるを我がゆきてこの大

ある觀みを見み何故な故ゆゑお赫あつの燃もたえきるをかを見みんをエホバが彼をさたり觀みんとするを見みたまふ即すなはち神かみ赫あつの中なかよりモーセよモーセよと彼をよびたまひけれを我がこゝにありといふを神かみいひたまひけるは此こお近ちかよるをありれ汝をの足あしより履はきを脱ぬぐべし汝が立たつ處ところは聖せいき地ちみれをなりと又またいひたまひけるは我がはんぢの父ちちの神かみアブラハムの神かみイサクの神かみヤコブの神かみありとモーセを見るをことを畏おそれてろの面おもてを蔽おほせりセエホバが言いたまひけるは我がまことおエロプトにをるわが民たみの苦患くわんを視みたま彼を等らの驅使者つかひの故ゆゑをもて號なづふところの聲こゑを聞き我があらわれらの憂うれひを知るをありとわれ降くだりておれらをエロプトの人ひとの手てより救すくひいだし之をを彼地かのちより導みだるをのぼりて善よき廣ひろき地ち乳ちのちと蜜ちのちとの流ながるを地ちすまはちカナン人カナンひと、ヘブ人ヘブひと、アモリ人アモリひと、ペリシ人ペリシひと、ヒビ人ヒビひと、エブス人エブスひとのをる處ところいたらまめんとすを今いまイスラエルの子孫こゝろの號なづ呼よむに達いたる我がまたエロプト人エロプトひとが彼をらを

苦むろの暴虐を見たり。然バ來れ我あんちをバロあつうはし
 汝をしてわグ民イスラエルの子孫をエツプトより導きいださ
 めん。モ一セ神いひけるは我は何かある者予や我豈バロの許
 ふ往きイスラエルの子孫をエツプトより導きいだすべき者あら
 んや。神いひたまひけるは我うあらず汝とどもにあるべし。是は
 且ダ汝をつうはせる證據あり。汝民をエツプトより導きいだした
 る時汝等この山にて神あ事へん。モ一セ神いひけるは我イス
 ラエルの子孫の所あゆきて汝らの先祖等の神我をあんちら遣
 りしたまふと言ん。彼等もし其名は何と我を何とかれらに
 言べきや。神モ一セいひたまひけるは我は有て在る者あり。又
 いひたまひけるは汝うくイスラエルの子孫いふべし。我有とい
 ふ者我をなんちら遣したまふと。神またモ一セいひたまひ
 けるは汝かくイスラエルの子孫いふべし。らんちらの先祖等の神

アブラハムの神イサクの神ヤコブの神エホバわれを汝らあつう
 はしたまふと。是は永遠あわが名とあり。世々あわが誌とあるべし。
 汝往てイスラエルの長老等をあつめて之いふべし。汝らの先
 祖等の神アブラハム、イサク、ヤコブの神エホバ我ああらりて言
 たまひけらく我誠ああんちらを眷ミ。汝らあエツプトにて蒙ると
 あろの事を見たり。我すあんち言り我汝らをエツプトの苦患の
 中より導き出してカナン人、ヘテ人、アモリ人、ペリシ人、ヒビ人、エブ
 ス人の地するはち乳と蜜の流るゝ地にのぼり至ら。志めんと。夫彼
 等あんちの言に聽た。ダふべし。汝とイスラエルの長老等エツプ
 トの王の許あいたりて之い言へ。ヘブル人の神エホバ我らあ臨め
 り。然バ請ふわれらをして三日程得と曠野あ入。去めわれらの神エ
 ホバ。あ犠牲をさうぐることを得せ。去めよと。我志るエツプトの
 王は假令能力ある手をつくはふるも汝等の往をゆるさざるべし。

我すなわちわが手を舒べエツプトの中を諸の奇跡を行ひてエツ
 プトを撃ん其後れ汝等を去去せしニ我エツプト人をしてこ
 の民をめぐまめん汝ら去る時手を空うして去るべうらす婦
 女皆らの隣人とおのれの家あ寓る者とお金の飾品銀の飾品よ
 び衣服を乞べし而して汝らこれを汝らの子女に穿戴せよ汝等
 くエツプト人の物を取べし

第四節

モーセ對へていひけるは然らば彼等我を信ぜず又わ
 が言を聽きたる言すして言んニホバ汝ああられたまらずと
 エホバうれひいたまひけるは汝の手あある者は何あるや彼い
 ふ杖ありニエホバいひたまひけるは其を地あ擡よとすはち之
 を地あなぐるお蛇とありけれバモーセの前を遑たりロエホバ
 モーセあひいたまひけるは汝の手をのべて其尾を執れとすは
 ち手をのべて之を執バ手あひりて杖とあるニエホバいひたまふ

是は彼らの先祖等の神アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、エ
 ホバの汝にあらわれたることを彼らお信ぜたまめんとありニ
 ホバまたうれに言たまひけるは汝の手を懐お納よとすなわち手
 を懐にいれて之を出し見るにその手癩病を生じて雪のごとくあ
 ざりニエホバまた言たまひけるは汝の手をふたよび懐にいれよ
 と彼するにちふたよび其手を懐にいれて之を懐より出し見るお
 變りて他處の肌膚のごとくなるニエホバいひたまふ彼等もし
 汝を信ぜずまたらの最初の徴の聲に聽従ひざるならし後の徴の
 聲を信ぜんニ彼らもし是ふたりの徴をも信ぜずして汝の言に聽
 従はざるならバ汝河の水をとりて之を陸地あろよげ汝が河より
 取たる水陸地にて血となるべしニモーセエホバにいひたまひけ
 るにわが主よ我は素言辭に敏き人にあらず汝が僕に語りたまへ
 るに及びても猶あより我の口重く舌重き者なりニエホバあれお

いひたまひける人の口を造る者は誰なるや、啞者、聾者、盲目者、智者など造る者は誰なるや、我エホバあるおあらずや。然レ往けよ、我なんちの口おありて汝の言ふべきことを教へん。モセいはひけるのわが主よ、願くし遣すべき者をつかはしたまへ。是にいはてエホバモセおひかひ怒を發して、いひたまひけるレ、ヒ人アロンは汝の兄弟あるおあらずや、我かき言を善するを知るま。た彼あんちお遇んどていで來る彼汝を見る時、心お喜ばん。汝うれお語りて言をろの口お授くべし。我なんちの口と彼の口おありて、汝らの爲べき事を教へん。汝なんちお代て民お語り、汝の口に代らん。汝の彼のためお神お代るべし。まあんちの杖を手に執り之をもて奇蹟をおこなふべし。是にいはてモセ、ゆきてろの妻レ父エテラの許あへりて之おいふ。請ふ我をして往てわがエロプトにある兄弟等の所にへらえ。彼等のみ同居するら。

へをるや否を見さしめよ。エテロモセは安然に往くべし。いふま、爰おエホバエデアンにてモセに、いひたまひける、い往てエロプトにうへれ。汝の生命をもどめし人の皆死たり。モセすな、いちろれ妻と子等をとり之を驢馬に乗てエロプトの地にかへる。モセは神の杖を手に執り、エホバモセに、いひたまひける、は汝エロプトにへりゆける時、いならず。我なんちの手に授けたるどみるの奇蹟を悉くバロのまへにおみなふべし。但し、我かれの心を剛愎あすれバ、彼民を去えめざるべし。汝バロに言べし、エホバかく言ふ。イスラエルはわが子わが家子あり。我なんちにいふ。我の子を去らえめて、我に事ふることを之をせしめ。汝もし彼をさらえむることを拒バ、我なんちの子、なんちの家子をお殺すべし。と言。モセ途にある時、エホバかれの宿所にて彼に遇て、ころさんと云。また、いひけるに、テチ、ボラ、利き石をとりて、ろの男子の隅の皮を割

りモーセの足下にあぐらうちて言ふ汝のまことにわがために乙血
 の夫ありと云是においてエホバ、モーセをのろしたまふ此時ツボ
 ヲ血の夫といひしハ割禮の故によりてなり愛にエホバ、アロ
 ンにいひたまひけるハ曠野にゆきてモーセを迎へよと彼すなり
 ちゆきて神の山にてモーセに遇ひ之に接吻す云モーセエホバダ
 あれに言ふくめて遣したまへる諸言とエホバののれに命
 じたまひし諸言奇跡とをアロンにつげたり云斯てモーセとアロ
 ン往てイスラエルの子孫の長老を盡く集む事而してアロンエホ
 バにモーセにかたりたまひし言を盡くつぐ又彼民は目のまへに
 奇蹟をなしけれを云民するハ信せず彼等エホバのイスラエルの
 の民をうへりミラは苦患をおもひたまふを聞て身をうらめて拜
 をあせり

第二節

一うは彼モーセとアロン入てバロにいふイスラエルの神

エホバ斯いひたまふ我民を去まめ彼等を去て曠野に於て我を祭
 ることを之せまめよとニバロいひけるハエホバの誰るれをう我
 ろの聲にたまひてイスラエルを去まむべき我エホバを識す亦
 イスラエルを去まめとニ彼ら言けるハエホバ人神我らに顯さ
 たまへり請ふ我等を去て三日程はと曠野にいりてわれら神エ
 ホバに犧牲をささぐることを之せまめよ恐くはエホバ疫病を又
 ハ刀兵をもて我らをなやましたまはん云云アト王かれらに言
 けるハ汝等モーセ、アロンあんず民の操作を妨ぐるや往てあんず
 られ荷を負へニバロまたいふ士民今は多あり然るに汝等あれら
 をして荷をおふふとを止まめんとすニバロ此日民を驅使ふ者等
 あよび民の有司等に命じていふ云云汝等再び前のごとく民に磚瓦
 を造る禾稈を與ふべからず彼等を去て往てミづから禾稈をわ
 めしめよハまた彼等が前に造りし磚瓦は數れごとくに仍あれら

に之をつくらしめよ其を滅するべし彼等ハ懶惰故に我等を去
 て往てわれられ時に犧牲をさよげまめよ呼なり言ふあり人
 人の工作を重くして之に勞あしめよ然を低は言を聴みとあらじ
 と十民を驅使ふ者等あよびろの有司等出ゆきて民にいひけるハ
 ハアアア言たまふ我あんぢらに不稗をあたへじと汝等往て不稗
 のある處にて之をどれ但しあんぢらに工作は分毫も滅さるべ
 しと是に於いて民運くエソプトの地に散て草藁をあつめて禾
 稗とあすま驅使者ありを促たてよ言ふ禾稗のありし時のごと
 く汝られ工作汝られ日々業をなしをふべしと昔ハ口の驅使者
 等ガイストラエルの子孫に上立たるどころは有司等擡れんぢ
 ら何ぞ昨日も今日も磚瓦を作るどふろの汝られ業を前のおどく
 に爲しをへさるやと言ふ是に於てイストラエルの子孫の有司等
 來りてハ口に呼はりて言ふ汝あんぢ斯僕等にはさすやま僕等に禾

稗を與へずして是らに磚瓦を作れといふ祝よ僕等は健る是な
 んぢの民の過ありと然るにハ口いふ汝等は懶惰し懶惰し故に
 汝らに我らを去て往てエホバに犧牲をさよげまめよと言ふあり
 大然を汝ら往て操作けよ禾稗はあんぢらに與ふることありるべ
 けき途なんぢら尙獸のごとくに磚瓦を交納むべしとイストラエ
 ルの子孫の有司等汝等ろの日々につくる磚瓦を滅すべからずと
 言るを聞て災害の身にあよふを知りて彼らハ口をえさきて出た
 る時モイセとアロンとの對面にたてるを見たきと之ににいひける
 の願くハエホバ汝等を鑿みて鞆きたまへ汝等はわきらの奥をハ
 口の目と彼の僕の目に忌嫌はせまめ刀を彼等の手にわたして我
 等を殺さまめんとするありとモイセエホバに返りて言ふわが
 主よ何て此民をあしくまたまふや何のために我をつかひしたま
 ひしや主わがハ口の詞に來りて汝の名をもて語りしよりして彼

この民をあしくす汝また絶てあんちの民をすくひたまはさるる
 り
 一 エホバ、モーセに言たまひけるは今汝わがバロに爲んど
 みろの事を見るべし能ある手の加はるによりてバロ彼らをさら
 しめん能ある手の加はるによりてバロ彼らを其國より逐いだすべ
 し。神モーセに語りて之をいひたまひけるは我はエホバなり
 我全能の神といひてアブラハム、イサク、ヤコブに誓れたり然と我
 名のエホバの事は彼等しらざりき。我また彼らとわが契約を立
 て彼等が旅して寄居たる國カナンカナンの地をうれらに與ふ。我また
 エロブト人エロブト人が奴隸とせむせるイスラエルの子孫の呻吟を聞き且我
 が契約を憶ひ出づ。故にイスラエルの子孫に言へ我はエホバな
 り我汝らをエロブト人の重負の下より擲出し其使役をまぬりれ
 しめ又腕をのべ火ある罰を得とふして汝等を驅はん。我汝等を

取て吾民どあし汝等の神とあるべし汝等はわがエロブト人の重
 擔の下より汝らを擲出したるあんちらの神エホバあるをぞ知
 ん。我わが手をあげてアブラハム、イサク、ヤコブと與へんと誓ひ
 し地に汝等を遊さいたり之を汝等と與へて產業となさめめん我
 はエホバなり。エホバとせりくイスラエルの子孫を語りても彼等
 は心の傷ると役事の苦さとの爲む。モーセに聞きりき。エホバ
 一。我告ていひたまひけるは。主はエロブトの王バロを語りイ
 スラエルの子孫をろの國より去ためよ。モーセエホバの前申
 していふ。イスラエルの子孫既我を聽す。我は口を割禮をうけざ
 る者あるをバロいりて我あきりんや。エホバモーセとアロンあ
 語り彼等も命じてイスラエルの子孫とエロブトの王バロの所あ
 往ためイスラエルの子孫をエロブトの地より導きいださめめた
 まふ。言うれらの父の家々の長は左のごとし。イスラエルの家子ル

ベンの子ヘンク、バル、ヘツロン、カルエ、是等はルベンの家族ありま
 シ、オンの子エムエル、ヤメン、オハデ、ヤキン、ゾハル、およびカナ
 ンの女の生しヤウル、是らはシメオンの家族なり、レビの子の
 名はろの世代に、またおひて言を左のおどしケルレヨン、コハテ、メ
 ラリ、是ありレビの齡の年は百三十七年なり、モケルレヨンの子
 はろの家族に、またおひて言をリアニ、およびシメイあり、オハテ
 の子はアマラム、イツハル、ヘブロン、ウツエルなり、コハテの齡の年
 は百三十三年あり、またメラリの子はマヘリ、およびムシあり、是等
 はレビの家族に、またろの世代に、またおひて言る者あり、アマラ
 ムの伯母ヨケベデを妻おめどれり、彼アロンとモーセを生むア
 ムラムの齡の年は百三十七年あり、またイツハルの子はコラ、子ベ
 グ、シクリあり、三ウツエルの子はエサエル、エルザパン、シタリあり
 三アロン、ナシヨンの姉アエナダブの女エリセバを妻おめどれり

彼ナダブ、アピウ、エレザル、イタマルを生む、ヨラの子はアツシ
 ル、エルカナ、アピアサフ、是等はコラ人の族あり、三アロンの子エレ
 アザル、プテエルの女の中より妻をめどれり、彼ヒチハスを生む、是
 等はレビ人の父の家族の長にしてろの家族に、循ひて言る者あり
 三エホバダイスラエルの子孫を、其軍隊に、またおひてエロブトの
 地より、導きいだせよ、といひたまひしは、此アロンとモーセあり、モ
 徳等はイスラエルの子孫をエロブトより、導きいださんとして、エ
 ロブトの王パロお語りし者にして、即ち此モーセとアロンあり、三
 エホバエロブトの地にて、モーセに語りたまへる日、三エホバモ
 ーセお語りて言たまひけるは、我はエホバあり、汝わが汝にいふ所
 を、悉くエロブトの王パロに、語るべし、三モーセエホバの前お言
 けるは、我は口お辯論を受ざる者、みれを、パロいひて、我お聽んや
 三エホバモーセお言たまひけるは、視よ、我汝を、また、パロお

あけるふと神のおとくあらまむ汝の兄弟アロンは汝の預言者となるべし汝はわが汝を命ずる所を盡く宜べし汝の兄弟アロンはバロに告ることを爲べし彼イスラエルの子孫をろの國より出さず至らん我バロの心を剛愎おして吾欲ど奇跡をエシプトの國お多くせん然どバロ汝を聽さるべし我すなわち吾手をエシプトにお加へ大なる罰を得せしめて吾軍隊わが民イスラエルの子孫をエシプトの國より出さん我わが手をエシプトの上お伸てイスラエルの子孫をエシプト人の中より出す時おは彼等我のエイホバあるを知らんハモーセとアロン斯おこるエイホバの命したまへる如くお然るしぬせろのバロと談論ける時モーセは八十歳アロンは八十三歳ありきハエホバモーセとアロンに告て言たまひけるはハバロ汝等お語りて汝ら自ら奇蹟を行へと言時には汝アロンお言べし汝の杖をとりてバロの前に擲てよど其は蛇とあら

ん十是お於てモーセとアロンはバロの許おいたりエホバの命したまひしごとくお行へり即ちアロンろの杖をバロとろの臣下の前お擲さハ蛇とありぬ士斯在まかババロもまた博士と魔術士を召よせたるおエシプトの法術士等もろの秘術をもてかくおみるへり即ち彼ら各人ろの杖を投たれば蛇となりけるおアロンのかかれらの杖を呑つくせり然るおバロの心剛愎おありて彼らに聽ふとせせきりきエホバの言たまひま如し言エホバモーセお言たまひけるはバロは心頑おして民を去まひるふとを拒むありま朝おおよびて汝バロの許おいたれ視よ彼は水お臨む汝河の邊おたちて彼を逆よべし汝ろの蛇お化し杖を手おとりて居りま彼お言ふべしへブル人の神エホバ我を汝おつりはして言まむ吾民を去まめて曠野おて我お事ふるふとを得せまめよ視よ今まて汝は聽入きりまるりまエホバらく言ふ汝みれによりて我おエホバ

あるを知らん哉よ我わする手の杖をもて河の水を撃ん是血お變すべ
 じま而して河の魚は死ふ河は臭くあらんエロプト人は河の水を
 飲ふとを厭ふおいたるべしまエホバまたモーセに言たまはく汝
 アロンお言へ汝の杖をとりて汝の手をエロプトの上お伸べ流水
 の上河々の上池塘の上一切の湖水の上お伸て血とあらまゆエ
 ロプト全嗣に於て木石の器の中お凡て血あるおいたらんモー
 セアロンすなはちエホバの命おたまへるごとくお爲り即ち彼バ
 ロどろの臣下の前お杖をわけて河の水を撃まに河の水みな血
 お變じたり三是おおいて河の魚死て河臭くありエロプト人河の
 水を飲ごを過ぎりきエロプト全國お血ありき三エロプトの
 法術士等もろの秘術をもて斯のごとく行へりバロは心頑固おし
 て彼等お聴ふとをせきりきエホバの言たまひし如し三バロすな
 りち身をめぐらしてろの家お入り此事おも心をどめきりき日エ

ロプト人河の水を飲ふとを過ぎりきろ心皆飲水を得んどて河の
 交りてを堀たりエホバ河を撃たまひてより後七日たちぬ

第八節

エホバモーセに言たまひけるハ汝バロお詣りて彼お言

へエホバかく言たまふ吾民を去まめて我お事ふることを得せま
 めよニ汝もし去まひるふとを拒ま心我をともて汝の四方の境を
 備さんニ河に鮎ひらるり上りきたりて汝の家おいり汝の寢室に
 いり汝の牀にのぼり汝の臣下の家おいり汝の民の所おいたり汝
 の窟おおよび汝の搔鉢おいらんニ鮎あん身の身おればり汝の民
 と汝の臣下の上にのぼるべしエホバモーセに言たまはく汝ア
 ロンに言へ汝杖をとりて手を流水の上お伸べ河々は上と池塘の
 上お伸て鮎をエロプトの地に上らまゆエアロン手をエロプト
 の水のうへお伸たま心鮎のぼりきたりてエロプトの地に上ら
 法術士等もろれ秘術をもて斯おこるひ鮎をエロプトの地に上ら

志めたりハバロモーセとアロンを召て言けるはエホバが願ひて
 この蛙を我とわが民の所より取さらしめよ我この民を去まめて
 エホバが犠牲をさよぐることを得せしめんハモーセハバロバ言け
 るに我あんちど汝の臣下と汝れ民のため願ひて何時此蛙を汝
 と汝の家より絶さりて河にのこ止らしむべきや我に罰せよ彼
 明日といひければモーセ言ふ汝の言のごとくお爲し汝をして我
 らの神エホバのごとき者あきことを知れめんハ蛙汝と汝の家を
 離さ汝の臣下と汝の民を離きて河にのこ止るべしとモーセと
 アロンするにハバロを離きて出でモーセのハバロに至らまめた
 まひし蛙のためエホバが呼りてエホバモーセの言のご
 とくあしたまひて蛙の家より村より田野より死亡たり言わこれ
 を損ひるハ山をあし地臭くありぬ然るにハバロは嘘氣時あるを
 見てろの心を頑固おして彼等お聴ことをせざりきエホバの言た

まひし如しエホバモーセお言たまひけるに汝アロンお言へ汝
 の杖を伸べ地の塵を打てエホバが全國お蚤とあらしめよと彼
 等斯るせり即ちアロン杖をとりて手を伸べ地の塵を擧げると蚤
 とあらしめて人ど畜ふつけりエホバが全國おあいて地の塵みる蚤と
 ありぬハ法衛士等ろの穢儀をもて斯おあひて蚤を出さんとま
 たりと夕能えざりき蚤の人ど畜ふ若くは是おあいて法衛士等ハ
 ハバロ言ふ是の神の指ありと然るハバロハ心剛愎にして彼等お聴
 ざりきエホバの言たまひし如しエホバモーセお言たまひて汝
 朝早く起てハバロの前に立て觀よ彼の水に臨む汝彼お言へエホバ
 かく言たまふとぞ民を去まめて我お事ふることを得せまめよ三
 汝もしわが民を去まめずハバロ視よ我汝と汝の臣下と汝の民と汝の
 家とお納をおくらんエホバト人の家をお納充べし彼らの居る
 とみろの地も然らん三ろの日お我わが民の居るゴセンの地を區

別おきて其處に納めらるるは地の中ありて我のエホバを
 ことを汝が知んためあり我わが民と汝の民の間に區別をたて
 ん明日の徴あるべし言エホバかく爲たまひたれバ納めびた
 しく出来りてバロの家にいりろの臣下の家おひりエホバト全
 おいたり納めのために地害するは是をおいてバロ、モーセとアロン
 を召ていひたるは汝等往て國の中に汝らの神に犠牲を献げよ
 兵、モーセ言ふ然するは宜からず我等のエホバト人の崇拜む者を
 犠牲として見せらるの神エホバに献ぐべけきバなり我等もしエホ
 バト人の崇拜む者をうけ目の前にて犠牲に献げらば彼等石にて
 我等を撃さらんや主我等の三日路ほど曠野おひりて我らの神エ
 ホバに犠牲を献げろの命とたまひしごとくせんぞすバロ言々
 るは我汝らを去おめて汝らの神エホバに曠野にて犠牲を献ぐる
 るは汝を得せしめん但餘お遺くは行べりらず我ためお祈れよ

言けるは視よ我汝をこゝきて出づ我エホバお祈ん明日納め
 口どろの臣下どろの民を離さん第バロ再び偽をおこみ民を去
 るめてエホバお犠牲をささぐるを得せしめざるが如きふとを爲
 されまかくてモーセ、バロをはなれて出でエホバお祈りたまは
 エホバ、モーセの言のごとく爲したまへり即ちろの納めバロど
 の臣下どろの民よりはるまゝめたまふ一ものありさりき然る
 ちバロ此時にもまたろの心を頑固おして民を去おめさりき
 第九節 爰おエホバモーセにいひたまひけるはバロの所おひり
 てりきに告よへブル人の神エホバ、斯いひたまふ吾民を去おめて
 我おつかふることをえせおめよ汝もし彼等をさらおむるふと
 を拒めて尙かきらを拘留へなむエホバの手野にをる汝の家畜
 馬、驢、牛、および羊お加はらん即ち甚だ怒き疾あるべしエ
 ホバイスラエルの家畜とエホバトの家畜とを別ちたまひんイス

ラエルの子孫に属する者は死る者あらざるべしとエホバは
 期をさだめて言たまふ明日エホバの事を國あふさんど明日
 エホバの事をあしたまひたきエホバの家畜も死り然と
 イスラエルの子孫の家畜はしも死きりきセバロ人をつかはして
 見さめたるにイスラエルの家畜の一頭だも死きりき然とも
 バロの心剛愎おして民をさらめきりきハまたエホバモーセ
 アロンにいひたまひたるの汝等電爐の灰を一握とて而してモ
 セバロの目の前おて天おひりひて之をまきちらすべし其灰
 エホバの目に塵となりてエホバの全國の人と畜獸おつき
 羅ト全國に塵となりてエホバの全國の人と畜獸おつき
 ちて服るゝ腫物となりんと彼等するをち電爐の灰をとりて
 口の前に立ちモーセ天にむらひて之をまきちらしけを人
 畜につき腫物もちて服るゝ腫物とあれり法術士等はろれ
 れたためにモーセの前に立つふとを得きりき腫物は法術士等より

来て語のニエホバト人にまで生じたり然とエホババロは心
 愎にしたまひたきバ彼ら不聴きりきエホバのモーセお言給ひし
 如し愛おエホバモーセにいひたまひける朝早くおきてバ
 の前にたちて彼お言へハブル人の神エホバ斯にいたまふ
 去まめて我に事ふるをえせまめよ言我此度わ諸の災害を汝
 心とるんちの臣下およびあんちの民お降し至地お我とどき者
 きみとを汝お知まめんま我もしわが手を伸べ疫病をもて汝
 んち汝を撃たらバ汝の地より絶きしあらん抑わ汝をたて
 たるの即ちあんちをたてわお權能を見まめわが名を全地お傳
 へんためり汝お得吾民の前お立ふさおりて之をさらめき
 るや大視よ明日の今頃我はなはだ大ある雷を降すべし是
 エホバの國より今までお管ておらきりし者なり然と人をやり
 て汝の家畜および凡て汝お野お有る物を集めよ人も獸畜も凡て

野ありて家歸らざる者の雷の上よりくだりて死なむ
 たらん。バロの臣下の中エホバの言を畏る者。其の僕と家畜を
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天
 家畜を野に置り。エホバモーセの言を意ひたまひける。汝の手を天

ふ言るは我此罪をかしたり。エホバの義く我をわさる。民の惡
 し。エホバは願ひて其の神鳴と雷を最早ふれにて足止め。我女
 んちらを去めん。汝等今は留る。あふはす。モーセは色いひ
 ける。我邑より出て我手をエホバに舒ひろげん。然レ雷やもて雷
 かさねてあらざるべし。斯して地はエホバの所屬あるを汝にあら
 ん。めん。然と我たる汝とらんちの臣下等は。はエホバ神を畏る
 ざる。あらん。と倍麻と大麥は。年きたり。大麥の穂いで。麻の花さ
 んた。色はあり。然と小麥と稗麥の未だ長きより。よりて。撃さ
 ん。は。モーセは。を。は。邑より。出で。エホバに。ひて。手
 の。ひ。ろ。げ。た。を。雷。と。雷。や。み。て。雨。地。に。よ。ら。ず。あ。り。ぬ。然。る。に。バ
 雨。と。雷。鳴。の。や。み。た。る。を。見。て。復。も。罪。を。犯。し。其。心。を。剛。硬。に。す。
 彼。も。ろ。の。臣。下。も。然。り。即。ち。バロ。は。心。剛。硬。に。去。て。イスラエル。の。子
 孫。を。去。去。め。さ。り。き。エホバ。の。モーセ。に。よ。り。て。言。た。ま。ひ。し。お。ど。し。

一爰にエホバモーセにいひたまひけるハ、エホバモーセハ口の所に入る
 我かれの心とろの臣下の心を剛硬かせり是れわが此等の傲を彼
 等の中に前さんためニ交らんちをして吾ガエホバトにて行ひま
 事等するハ、吾ガエホバトの中に於て斯して汝等わがエホ
 なんちの子の子の耳に語らぬめんとあり斯して汝等わがエホ
 なるを知べしモトセエホバの所にいりて彼にいひけ
 るは、エホバ人の神エホバかく言たまふ何時まで汝ハ我に降る
 ことを拒むや我民をさらぬめて我ハ事ふることを之せまめよ、汝
 もしわが民を去まむることを拒まば明日我蠅をあんちの境に入
 らめん、エホバ地の面を蔽て人地を見るあたひざるべし、エホバの死か
 られてあんちに遺れる者すなはち電に打のこされたる者を食ひ野
 の臣下は家々よび凡れエホバト人ハ家に満べし是はあんち

父とあんちの父の父が世にいでしより今日にいたるまで未だ嘗
 て見ざるもれありと斯て彼身をやちしてエホバ所よりいでた
 り、エホバ時にエホバの臣下ハエホバにいひけるハ、何時まで此人われらの
 どもるや人々をさらぬめてろ、エホバハ事ふることを之せま
 らぬ、エホバハエホバトに語るを知らざるや、エホバハ是をもてモトセ
 エホバトに召してエホバの許にいたるにエホバにいふ、エホバ往
 てなんちを去まむる時ハエホバハ事へよ、但し往く者の誰ぞ誰なるや、エホバ
 往き羊をも牛をもたづさへて往くべし、其ハ我ハエホバの衆
 をなさんぞ、エホバはなり、エホバハかきらにいひけるハ、我汝等どあん
 ちの子等を去まむる時ハエホバハあんちらと信に在り、慎めよ、エホバ
 事あんちらの面はまへにあり、エホバは宜からず、汝ら男子のミ往て
 エホバに事よ、是はあんちらに求むるところなり、エホバハ彼等つひにエホ

の前より選いださる。愛にエホバ、モーセをいひたまひける。汝の手をエロブトの地れうへに舒て、蝮をエロブトに賦にのすませ。彼れ電が打殺したる地の諸の藁を悉く食え、よきモーセすな。いちエロブトの地の上の杖をのべけれ。バエホバ、東風をおこして、ろの一日一夜、地にふりまめたまひしが、東風朝におよびて、蝮を吹きたりて、言、蝮エロブト、全國のすみエロブトの四方の境に居て害をなすこと太甚し。是より先に、斯のごとき蝮なかりし。是より後にもあらざるべし。蝮全國の上を蔽ひける。バ國暗くありぬ。而して、蝮地の諸の藁および電の打殺せし樹の葉を食ひたれば、エロブト、全國おれて、樹も田圃も藁も青き者どて、いのこらざり。よき、是をもて、バ、急ぎモーセとアロンを召て、言ふ。我あんちらの神エホバと汝等どにむかひて、罪をかせり。然バ、請ふ。今一次のみ、吾罪を宥めて、なんちられ。神エホバ、願ひ、唯此死を我より取

は、よき、あめよと、汝す。あち、バロの所より出て、エホバにねがひけ。よき、バ、エホバは、あはだ、強き、西風を吹め、ぐらせて、蝮を吹はらはしめ。之を、紅海、お驅いれたまひて、エロブトは、四方に、境、お蝮、ひとつも、還らざる。ふいた、さり、然、よき、エホバ、バロ、れ、心、を、剛愎に、また、まひた。よき、エホバ、エルの子孫を、さら、あめ、さり、き、三、エホバ、また、モーセ、を、いひ、たまひ、ける。天、おむかひて、汝の手を、舒、て、エロブトの國、お黒暗を、起す。すべし。其、黒暗、の、換る、べき、あり、と、三、モーセ、す、あち、天、に、むかひて、手、を、舒、け、き、を、稠密、黒暗、三日、の、おひだ。エロブト、全國、おあり、て、三、三日、は、間、の、人々、た、ぐ、ひ、お、相、見、る、あ、た、の、す、又、あ、の、よ、の、處、より、起、る、の、あ、り、り、き、然、と、イ、エホバ、エルの子孫の居處、おは、皆、光、あり、き、三、是、お、就、て、バ、ロ、モーセ、を、呼、て、い、ひ、け、る、の、汝、等、お、きて、エホバに、事、よ、唯、あ、ん、ち、ら、の、羊、と、牛、を、留、め、お、く、べし。汝、ら、の、子、女、も、亦、なん、ち、ら、と、ど、も、に、往、べし。三、モーセ、い、ひ、け、る、の、汝、また、我、等、の、神、エホバに、

獻ぐべき犠牲と燔祭の物をも我等に與ふべきなり。汝らに家畜もわきらとどども往べし。一跡も彼おれあすべらさ其の我等のち中を取てわきらの神エホバに事べきが故あり。またわきら彼處にいたるまで何をもてエホバに事ふべきか。を聞きよ。わきらとどども然きどもエホバハロの心を剛愎はしたまひたまはら。わきらにをさらまひることを得せざりき。言すなり。ハロモトセ。お言ふ我をはあきて去よ。自ら憤り重てわが面を見るありき。汝わが面を見る日あり。死べし。元モトセいひける。汝の言ふどろの善し。我重て復あんちの面を見ざるべし。

第二十二節

エホバモトセいひたまひける。我今一箇の災をバロにおよび。エロプトを降さん。然後ら汝等を此處より去まむべし。彼あんちらを全く去まむるに必ず汝らを此より逐はらん。然を汝民の耳にたり。男女をしておの／＼の陣々に銀は飾品、金

の飾具を乞ふめよ。エホバつひに民をしてエロプト人の思を蒙らめ。たまふ又ろの人モトセ。エロプトの國にてバロは臣下の目と民の目に甚だ大ある者と見えたり。モトセいひける。エホバの國の中の長子たる者。位を坐するバロの長子より。磨の後にをる。婢は長子まで悉く死べし。又歌音の首出も。志あり。而してエロプト全國大なる號哭あるべし。是まで是のおどき事あり。あすまた再び期するも。有ざるべし。然どイスラエルの子孫むひひて。ハロもろれ舌をうお。あさじ人あひらひても。歌音にむひひても。然り。汝等みよ。にによりて。エホバガエロプト人。どイスラエルのあひだに區別をなしたまふ。を知べし。汝の此臣等。みなわが陣に下り来て。わきを拜し。汝とあんち。に従ぐ。よ民みな出よ。言ん。然る後。わき出べし。と烈しく怒りて。バロの所より出たり。エホバモトセ

おひいたまひけるは、バロ汝に聽ききるべし。是をもて吾ガエロプトの國くにに奇蹟まじをよみよふと増ましべし。トモーセとアロンとの諸もろれ奇蹟まじをこぞく。バロの前に行ゆひたきども。エホババロの心を剛愎こわにたたまひけき。彼かイスラエルれ子孫こをろれ國くにより去まめきり

一エホバエロプトの國くにあて

モーセとアロンに告つていひ

たまひけるは、此月このつきを汝きらの月の首はつとあせ。汝きらは是こゝを年の正月はつとなすべし。ト汝等きイスラエルの全會衆けんあ告つて言いへし。此月の十日このひお家の父ちちたる者ものあの一ひとの羔羊かひを取とり。即すなはち家いへおとあ一個ひとの羔羊かひを取とり。べし。トもし家族いへ少すくくして其その羔羊かひを盡つくす。とあたはずをろの家の鄰となりある人ひととよも。お人の數かずあふた。がひて之これを取とり。べし。各人ひとりの食くふ所ところあふた。がひて汝等き羔羊かひを計はかるべし。ト汝らの羔羊かひは疵きずあき當歳このとしの壯さかなるべし。ト汝等き綿羊わたがしあるひは山羊やまの中なかよりふれを取とり。べし。ト而しかし

て此月このつきの十四日このひまで之これを守まもり。おきイスラエルの會衆けんみる薄暮ゆふぐに之これを屠ころり。七ななの血ちをとりて其その之これを食くふ。家の門口かどの兩旁ふたはたの欄かざりと鴨あひ居ゐる塗ぬべし。ト而しかして此夜このよの肉にくを火かあ炙いて食くひ。又また酔よいれぬ。パンあ苦菜くさいをろへて食くふべし。ト其そのを生なへても水みづあ炙いても食くふ。あられ火かあ炙いべし。其その頭あたまと腰こしと臍へそとを肴なまくらへ。ト其そのを明あ朝したまで殘のこし。おくる。あれ其その明あ朝したまで殘のこれる者ものは火かあて焼やつくすべし。トあんちら斯か之これを食くふべし。即すなはち腰こしをひきり。け足あしお鞋くつを穿きき。手てお杖つえをとりて急いそぎて之これを食くふべし。是こゝエホバの逾越あふ節ふしあり。是こゝは夜よわかれ。エロプトの國くにを巡めぐりて人ひとと畜とらとを誦よみ。エロプトの國くにの中なかの長子ちがひたる者ものを盡つくく。單殺ひとし。又またエロプトの諸もろの神かみあ罰ちがひをあう。むらせん。我われはエホバあり。まろの血ちあんちら。が居ゐるところの家いへあ。ありて汝等きのため。あ記號しるしとあらん。我われ血ちを見る時ときあんちら。を逾越あふすべし。又またわがエロプトの國くにを撃うつ。時災ときわざあんちら。お降くだりて滅なぼす。ふとなりるべし。ト汝

ら是日を記念文てエホバの節期とるし世々ふれを祝ふべし汝等
 之を常例とあして祝ふべし七日の間酔いれぬパンを食ふべし
 ろの首の日おパンを食ふ汝らの家より除け凡て首の日より七日ま
 でお酔入たるパンを食ふ人はイスラエルより絶るべきあり其且
 首の日お聖會をひらくべし又第七日お聖會を汝らの中お開け是
 ふたつの日おは何の業をもあらず只各人の食ふ者のみ汝等
 作るふとを得べし汝ら酔いれぬパンの節期を守るべし其は此
 日お我らあんぢらの軍隊をエジプトの國より導きいだせバあり故
 お汝ら常例とあて世々是日をまもるべし正月に於てその月
 の十四日の晩より同月の二十一日の晩まで汝ら酔いれぬパンを
 食へ七日の間あんぢらの家おパンを食ふくべからず凡て酔いれ
 たる物を食ふ人は其異邦人たる日本國お生れし者たるを問す
 皆イスラエルの聖會より絶るべし汝ら酔いれたる者は何をも

食ふべからず凡て汝らの居處に於ては酔いれぬパンを食ふべし
 是は汝らに於てモーシエイスラエルの長老を盡くまねきて之のいふ汝
 等々の家族お循ひて一頭の羔羊を撿み取り之を屠りて逾越節の
 ためお備へよ又牛蒡草一束を取て孟の血お澀し孟の血を門口
 の門居および二旁の柱おろよべし明朝おいたるまで汝等一人
 も家の戸をいづるあられし其はエホバエジプトを撃お巡りたま
 ふ時鴨居と兩旁の柱に血のあるを見むエホバ其門を逾越し殺滅
 者をあて汝等の家お入て撃さらあめたまふべけれあり汝らは是
 事を例とあして汝らとあんなの子孫永くふれを守るべし汝等エ
 ホバの言たまひしおどくおあんぢらお與へたまひんとある
 の地お至る時は其の禮式をまもるべし若らあんぢらの子女この
 禮式は何の意あるやと汝ら問はば汝ら言ふべし是はエホバの
 逾越節の祭祀ありエホバエジプト人を撃たまひし時エジプトに

をるイスラエルの子孫の家を超越てわさらの家を救ひたまへり
 と民するはち轉て拜せり云イスラエルの子孫去てエホバのモー
 セとアロンに命じたまひしおどくを斯あみるへり云愛おエホ
 バ夜半あエシブトの國の中の長子たる者を位お坐するバロの長
 子より半獄あある俘虜の長子まで盡く撃たまふ亦家畜の首生も
 まかり半斯有えりをバロどろの諸の臣下あよびエシブト人みる
 夜の中あ起あがりエシブトに大ある號哭ありき死人あらざる家
 あうりけれバるり三バロするら夜の中あモーセとアロンを召
 ていひけるは汝らどイスラエルの子孫起てわが民の中より出さ
 り汝らがいへる如くお往てエホバに事へよ亦あんちらが言る
 おどく汝らの羊と牛をひきて去れ汝らまた我を祝せよと云是あ
 いてエシブト人我等みる死ると言て民を催過て速りに國を去え
 めんどせしむを言民捏殺の未だ酔いれざるを執り捏盤を衣服に

包みて肩お負ふ而してイスラエルの子孫モーセの言のおどく
 爲しエシブト人あ銀の飾物金の飾物あよび衣服を乞たるあ云エ
 ホバエシブト人を去て民をめぐまため彼等あみれを與へあめた
 空ふ斯うれらエシブト人の物を取り去斯てイスラエルの子孫ラ
 ノセスよりスコアお進みまが子女の外に徒にて歩める男六十萬
 人ありき又衆多の寄集人あよび羊牛等はあはだ多の家畜彼等
 どどもに上れり云愛お彼等エシブトより携へいでたる捏殺をも
 て酔いれぬパンを炊り未だ酔をい色さりけれをあり是うれら云
 ヲブトより速いだされて溜滞るを得ざりまに由り又何の餓糧を
 も備へざりまお因る早倍イスラエルの子孫のエシブトお住居し
 ろの住居の間は四百三十年ありき四百三十年の終おいたり即
 ち其日あエホバの軍隊みるエシブトの國より出たり是はエホ
 バお彼等をエシブトの國より導きいだまたまひし事のためあエ

ホバの前守るべき夜あり是はエホバの夜にしてイストラエルの子孫の信せよまもるべき者あり是エホバ、モーセとアロンも言たむはけるは逾越節の例は是のおとし異邦人はふきを食ふべからず但し各人の金にて買たる僕は割禮を施して然る後は食ふべし是外國の客および傭人は之を食ふべからず異一の家にてふきを食ふべし肉を少し家の外に持つるるも又其骨を折べからず是イストラエルの會衆みる之を守るべし異邦人あるちどよもに寄居てエホバの逾越節を守らんとせを其男悉く割禮を受て然る後近かりて守るべし即ち彼は國に生きたる者のことくあるべし割禮をうけざる人はふきを食ふべからざるなり是國に生きたる者にもまた汝らの中に寄居る異邦人にも此法は同一ありイストラエルの子孫みる斯もふるひエホバのモーセとアロンに命じたまひしおどく爲たり是の同七日もエホバ、イストラエ

ルの子孫をろの軍隊にまたるひてエジプトの國より導きいだしたまへり
 第二節 爰にエホバ、モーセに告ていひたまひけるは人ど畜どを諭す凡てイストラエルの子孫の中の却て生きたる首生をを皆聖別て我に歸せしむべし是わが所屬あるをありモーセ民にいひけるは汝等エジプトを出で奴隸たる家を出るこの日を誌之よエホバ能ある手をもて汝等を此より導きいだしたまへをあり酔いきたるパンを食ふべからずエジプトの月の此日あるんちら出づエホバ汝を導きてカナン人、ヘテ人、アモリ人、セヒ人、エブス人の地するはちろの汝にあたへんと汝の先祖たちに誓ひたまひし彼乳と蜜の流る地に至らめたまらん時あんち此月に是禮式を守るべし第七日の間あんち酔いきぬパンを食ひ第七日にエホバの節禮をあすべし七酔いきぬパンを七日くらふべし酔いきたるバ

ンを汝の所におくるは又汝の狼の中に於て汝の言ハシテ
 くるかきハ汝の日に汝の子を承して言ハシ是ハ吾ガエロ
 より出る時ハエホバの我ハ爲したまひし事のためありト
 をみんちの手におきて記號と爲し汝の目の間におきて記號と爲
 してエホバの法律を汝に口におたまむべし其ハエホバ能ある手
 もて汝をエロプトより導きいだしたまへと成りト是故ハ年々
 汝期おいたりてみれ例をまもるべしトエホバ汝とみんち先祖
 等ハ誓ひたまひしおどく汝をカナンの地にみちびきて之を汝
 に與へたまはん時ト汝凡て始て生きたる者および汝の有る畜の
 初生を悉く分ちてエホバに歸せまむべし男壯ハエホバの所屬
 るべしト又驢馬の初子の皆羔羊をもて贖ふべし且牝はすをろ
 の頸を折るべし汝れ子等ハ長子ある人はみな贖ふべし昔後
 お汝れ子汝も問て是ハ何あると言むこれに言ハシエホバ能ある

手をもて我等をエロプトより出し奴隷たりし家より出したまへ
 りト當時ハ剛愎にして我等を去らめざりしかをエホバ、エロ
 プトの國の中の長子たる者を人の長子より畜の初生まで盡く殺し
 たまへり是故に始めて生れし牡を盡くエホバハ犠牲ハ献ぐ但し
 わが子等ハ中れ長子の之を贖ふありト是をみんちの手におきて
 號と爲し汝に目を見問おきて記號と爲すべしエホバ能ある手をも
 て我等をエロプトより導きいだしたまひたれバなりト是倍ハ
 民をさらめし時ベリセタ人の地の遠かりけとも神使等をも
 ちびきて其地を通りたまひざりき其ハ民戰争を見バ悔てエロ
 プトに歸るあらんと神おもひたまひたれをありト神紅海に曠野の
 道より民を導きたまふイスラエルの子孫行伍をたてエロプト
 の國より出づ其時モ一セのヨセフの骨を携ふ是ハヨセフ神か
 らす汝らを容れたまふべけれバ汝らわが骨を此より携へ出づ

べしといひてイストラエルの子孫を固く懼せたまはるなり
 べしといひてイストラエルの子孫を固く懼せたまはるなり
 れらスコラより進きて曠野の端あるエホバを慕張すニエホバ
 れらの前ふ往たまひ雲の柱をもてりきらを導き夜の火の柱
 をもて彼らを照して晝夜往すよましめたまふ三民の前に雲
 の柱を除きたまはず夜の火の柱をのぞきたまはず
 出埃及記 第十四章 五節 茲にエホバ、モーセに告ていひたまひけるに、
 イストラエルの子孫に言て、轉回てエゴドルと海に間あるピハヒロテは、前
 あたりてパアルセボンの前に幕を張止めよ、其にむりひて海の傍
 に幕を張るべし。エホバ、イストラエルの子孫に事をあたりて、彼等の
 ろの地に迷ひをりて曠野に閉こめられたるをらんといふべけれ
 をなり。我ハバの心を剛愎にすべけれど、バロ、彼等の後を追はん
 我ハバとぞ凡の軍勢に由て衆を得エロプト人を去て吾エホバ
 なるを知らぬと彼等すなり。斯なせり。茲に民の逃さりたる

みてエロプト王を聞えけれをバロとぞの臣下等民の事あけさて
 心を變じて言ふ我等何て斯イストラエルを去まめて我お事さら去
 するがあとさ事をなしたるやと、バロすありちろの車を備へ民
 を將て己にあたるの志めり。選抜の戦車六百輛あエロプトの諸
 戦車および其の諸の軍長等を率ゐたり。エホバ、エロプト王ハ
 の心を剛愎おしたまひたれむ。彼イストラエルの子孫の後を追ふ
 たらエルの子孫の高らりある手によりて出あるありエロプト人
 等ハロの馬車およびちろの職兵と軍勢、彼等の後を追てろのバアル
 セギンの前あるピハヒロテの邊、海の傍に幕を張るお遅つけ
 り。バロの近よりし時、イストラエルの子孫目をあげて視し、エロ
 プト人己の後お進みきたり去くを痛く懼れたり。是ふ於てイストラ
 エルの子孫、エホバに呼號り、且モーセに言けるに、エロプトお墓
 のあらざるをために汝われらをたづさへいだして曠野に死おむ

るや何故に汝われらをエロプトより誘きいだして斯われらに爲
 や我等がエロプトにて汝に告て我等を棄おき我らを去てエロ
 プト人に事止めよと言し言は是らせず其の曠野にて死るより
 もエロプト人に事するの善れバありモ一七民にひける汝ら
 懼るより汝ら立てエホバが今日汝等のために爲たまはんとある
 の救を見よ汝ら夕今日見たるエロプト人をバ汝らかさねて復み
 れを見ること絶てあするべきあり昔エホバ汝等のために戰ひた
 まらん汝等の静りて居るべし其時にエホバモ一七おひたまひ
 ける汝ら汝ら我に呼べるやイストラエルの子孫を言て進みゆ
 ためよ汝杖を擧げ手を海の上に伸て之を分ちイストラエルの子
 孫を去て海の中は乾ける所を往ためよ我エロプト人け心を剛
 愎にすべけれを彼等その後に去たがひて入るべし我をくしてバ
 どのの謀の軍勢およびろの戦車と騎兵お因て榮譽を得ん我

おバどのの戦車と騎兵おによりて榮譽をえん時エロプト人の
 我のエホバあるを知らず愛おイストラエルの陳營の前を行神の
 使者移りてろの後に行けり即ち雲の柱の前面をはなれて後に
 立ち去エロプト人の陳營とイストラエルの陳營の間に至りける
 お彼のためおの雲とあり暗とあり是がために夜を照せり是を
 もて彼と是と夜は中お相近づるさきモ一七手を海の上お伸
 けれバエホバ終夜強き東風をもて海を退らため海を陸地とあし
 たまひて水邊お分れたりイストラエルの子孫海は中の乾ける所
 を行くお水は彼等の右左お墻とあれりエロプト人等バの馬
 車騎兵みあるの後に去たがひて海の中に入る言喚おエホバ火と
 雲との柱の中よりエロプト人の軍勢を望ミエロプト人の軍勢を
 懼まし其車の輪を脱して行に重くあらためたまひけとバエロ
 プト人言ふ我等イストラエルを離れて逃ん其のエホバかきらのた

めにエロブト人と戦へをありと云時ハエホバモトセに言たまひけるの故の手を海の上に伸て水をエロブト人との戦車と騎兵の上に流さ反らまめよと云モトセするのち手を海の上に伸けるに夜明におよびて海木の勢力にかへりたはエロブト人にて逃ひて逃たりまをエホバエロブト人を海の中に攪ちたまへり即ち水流反りて戦車と騎兵を覆ひエストラエルの後にまたおひて海にいたりしバロの軍勢を悉く覆へり一人も逃れる者あらざり然とイストラエルの子孫は海の中の乾ける所を歩もしお水は右左に墻とあさり手斯エホバこの日イストラエルをエロブト人の手より救ひたまへりイストラエルはエロブト人が海邊に死をる見たりニイストラエルまたエホバをエロブト人に爲たまひし大なる事を見たり是に於て民エホバを畏さエホバどのの僕モトセを信じたり

第二節

是に於てモトセよクイストラエルの子孫この歌をエホバに誦ふ云く我エホバを歌ひ頌ん彼は高らかに高くいまする

彼は馬どうの乗者を海にるげうちたまへりエわが力わが歌はエホバなり彼わが歌極どありたまへり彼はわが神あり我こそを願美ん彼はわが父の神あり我こそを崇めんエホバは軍人にして其名はエホバありも彼バロの戦車どのの軍勢を海に投すてたまふバロの勝きたる軍長等は紅海に沈めり大水うきらを流ひて彼等石のおどくに淵の底に下るエホバよ汝の右の手は力をもち榮光をあらはすエホバよ汝の右の手の敵を碎く七汝の大なる榮光をもて汝に汝にたも進ぶ者を滅したまふ汝怒を發すきを彼等は葉のおどくに焚つくさる入汝の鼻の息によりて水積かさあり浪堅く立て岸のおどくに成り大水海の中に經る敵の言ふ我進て追つき掠取物を分たん我かきらに因てわが心を飽えめん

我劍を抜んわが手あきらをさすんと汝氣を吹たまへ海を
 らを覆ひて彼等の猛烈き水に鉛のおどくに沈めりせエホバよ神
 の中に誰の汝に如ものあらん謀る汝のおどく殺して衆あり讓べ
 くして感ありて奇事を行ふ者あらんや汝の右の手を伸た
 まへ心地をさちを呑む汝の右の頬ひし民を思惑をもて海に汝
 の力をもて彼等を汝の聖き居所に引たまふ昔國々の民聞て慄へ
 べリレエに住む者畏懼を懐くエヤムの君等歌きモアブの剛者
 戦慄くカナンに住る者とな消うせん其畏懼と戦慄をさち及ぶ
 汝の腕の大あるがために彼らの石のおどくに賦然たりエホバよ
 汝の民の通り過るまで汝の買たまひし民の通過るまで然るべし
 汝の民を導きてこれを汝の產業に山に植たまはんエホバよ是す
 るうち汝の居所とせんとして汝の設けたまひし者あり主よ是汝の
 手は社たる聖所あり大エホバの世々限るく王たるべし其期は

の馬の車および騎兵どもも海にいりまへエホバ海の水を彼
 等の土を流れ還らまめたまひしガイラエルの子孫は海の中に
 ありて旱地を通れり其時アハロンの子孫は預言者モリアムを
 手あどるに婦等みあむ彼をえたがひて出て戯をとり且踊るモ
 アムするはち彼等に和へて言ふ汝等エホバを歌ひ頌よ彼は高ら
 るに高きいすするなり彼は馬どろの乗者を海お揺ちたまへり
 斯てモーセ紅海よりイスラエルを導きてレエルの曠野にいり曠
 野に三日歩みたりまが水を得ざりき彼ら遂にソラおいたりま
 がソラの水苦くして飲こぞを得ざりき是をもて其名はソラ(苦)と
 呼る言是あ放て民モーセおむひて歌き我等何を飲んかと言け
 れを言モーセエホバに呼はりしエホバはみよに一本の木を前し
 たまひたれを則ちみれを水お授いれし水甘くみれり彼處にて
 エホバ民のために法度と法律をたてたまひ彼處にてこれを試み

て云言たまはく汝もし善く汝の神エホバの聲を聴きたらばエホバの目お善と見ることを爲しその誠命お耳を傾けその諸の法度を守む我はガエロブト人に加へしところのその疾病を一つ汝に加へざるべし其れ我はエホバにして汝を醫そ者あるれをありと云
 斯て彼等ヨリムに至り其處に水の井十二椽七十木あり彼處
 ありて彼等水の傍に幕張す
 第二節 斯てエリムを出たちてイスラエルの子孫の會衆の
 エリムの地を出しより二箇月の十五日お皆エリムとシナイの間
 あるエリムの曠野にいたりけるが其曠野に於いてイスラエルの
 全會衆モイセとアラオンに向ひて叫けり三即ちイスラエルの子孫
 かれらお言けるは我等エロブトの地を於て肉の鍋の側に坐り飽
 までおパンを食ひし時おエホバの手およりて死たらを善りし者
 を汝等は此の曠野に我等を導きいだしてこの全會を飢ふ死せめ

んとするあり時おエホバモーセお言たまひけるは視よ我はパン
 を汝らのためお天より降さん民いでよ日用の分を毎日敷ひべし
 斯して我がまらが君の法律おまたがふや否を試みん第六日お
 は彼等らの取れたる者を調理ふべし其は日々に餘る者の二倍
 あるべしホモイセとアラオン、イスラエルの全の子孫に言けるは夕
 にいたらば汝等はエホバが汝らをエロブトの地より導きいだし
 たまひしなるを知にいたらん又朝にいたらば汝等エホバの業
 光を見ん其はエホバおんちらおエホバに向ひて叫くを聞たまへ
 をあり我等を誰とあして汝等は我等おむむひて叫くやホモイセ
 また言けるはエホバ夕には汝等お肉を與へて食ひしめ朝にはパ
 ンをあたへて飽えめたまはん其はエホバ己にむむひて汝等が叫
 くだふるの怨言を聞給へをあり我等を誰と爲や汝等の怨言は我
 等にむむひてするお非ずエホバにむかひてするありホモイセア

ロンに言けるハイストラエルの子孫の全會衆も言へ汝等エホバの
 前近よれエホバあるちらの怨言を閉給へりぞオアロンするハ
 イストラエルの子孫の全會衆も語えか之彼等曠野を望むハエホバ
 の榮光雲の中を驅はるエホバも一セに告て言たまひけるハ
 我オエラエルの子孫の怨言を聞き彼等告て言へ汝等夕の肉を
 食ハ朝のパンに飽べし而して我のエホバあして汝等の神ある
 ことを知にいたらんぞ主即ち夕におよびて鶴きたりて糞を覆ふ
 又朝におよびて露營の四圍におきし言るのおける露乾くにあ
 たりて曠野のまみ霜れとどき小き團き者地にありまイストラエ
 ル子孫み色を見て此何予やと互言ふ其ころの何たるを如き
 ことありモーセかれら言けるハ是ハエホバの汝等食むた
 へたまふパンありまエホバの命じたまふとあるの事ハ是あり即
 ち各々は食ふとあるも循ひて之を飲め汝等ハ人飲むはたがひて

一人に一オメルを取れ各人ろの天幕あをる者等のためみ色を
 取べしモイストラエルは子孫かくあせしに其飲るとあるに多きと
 少きとありまオメルをもてみ色を量るに多く飲めし者にも
 餘るとある無く少く飲し者もある足ぬとろ無りき者ろの食ふと
 みるに循ひてこれを飲めたりま一セ彼等に請も朝までみれを
 残しおく可らずと言ハ然るに彼等も一セに聽きたがはず去て
 或者ハこれを朝まで残したりまあひたりて與ありぬも一セこ
 れを怒る三人々各ろの食ふところも循ひて毎朝之を飲めま
 日熱なま消ゆ第六日あいたりて人々二倍のパンを飲めたり
 即ち一人に二オメルを飲むるに會衆ハ長皆きたりて之をモーセ
 に告ぐモ一セあるに言ふエホバの言たまふとあるは是のごと
 し明日はエホバの聖安息日にして休息あり今日汝等焼んとする
 者を焼き煮んとする者を煮よ其残る者ハ皆明朝まで煮めおく

べし言彼等モーセの命せしごとくに聖朝まで癒めおきしお莫く
 あるもど無く又蟲もろの中を生ぜざりき言ふ汝等今日
 其を食へ今日ハエホバの安息日なれば今日の汝等こを野に獲
 きるべし言ハ六日の間汝等これを斂むべし第七日は安息日な
 ろの日には有ざるべし然るに民の中に七日ハ出て斂めんとせ
 し者ありしお得とみろ無りき言是はあいてエホバ、モーセお言た
 せざるや言汝等感ハエホバなちらお安息日を賜へり故に第六
 日ハ二日の食物を汝等おわたへた言ふあり汝等おのくろの處
 お休みをを第七日おのろの處より出る者あるべおらず言是民第
 七日に休息り三イスラエルの家の物の名をマナと稱り是は斂
 の實れごとくにして白く其味ハ蜜をいれたる菓子のごとし是を
 一オメハ盛
 一七言ハエホバの命じた言ふどころ是れごとし是を一オメハ盛

て汝等の代々れ子孫のためにたくはへおくべし是はわが汝等を
 エホアの地より導きいだせし時に曠野にて汝等を養ひしとて
 ろのパンを之に見さしめんとためあり而してモーセ、アロンに言
 ける言蓋を取てろれ中にマナ一オメを盛てこをエホバの前
 にあき汝等れ代々の子孫のためにたくはふべし言エホバのモ
 セに命じた言ひし如くにアロンこを律法の前におきてたく
 ふ言イスラエルれ子孫の地お至るまで四十年の間マナ
 を食へり即ちカナン地の境にいたるまでマナを食へり言オメ
 ルハエホバは十分れ一あり
 第十六章 第二節
 言イスラエルれ子孫は會衆エホバの命にまたがひて皆曠
 野を立出で曠野をかさねてレビテムに幕張せまが民は飲
 む水あらざりき言是をもて民モーセと争ひて言ふ我等お水をあ
 たへて飲まめよモーセわれらに言ける言汝ら何ぞ我どあらうふ

や何ぞエホバを試むるや。彼處にて民水に渴き民モーセにむり
 ひて或き言ふ汝を遣て我等をエジプトより導きいだして我等を
 われらに子女とわきらば家畜を渴か死せんとするや。是に於
 てモーセ、エホバに呼わりて言ふ我こそは民に何をなすべきや。彼等
 の殆ど我を石にて撃んとするあり。エホバ、モーセに言たまひけ
 る。汝民の前に進み民は中の或長老等を伴ひて汝が河を撃し
 杖を手お執て往よ。視よ。我らここに汝の前にあたりてホレブレ
 禁の上に立ん汝鎗を撃べし。然せば其より水出ん民こきを飲べし
 モーセするはちイストラエルは長老等の前にて斯おこるへり。そ
 くて彼らの處の名をマサと呼び又マリバと呼り。是はイストラエ
 ルの子孫の争ひしお山り又そのエホバの思きらの中に在すや。否
 ど言てエホバを試みしお山あり。時にアマレクきたりてイストラ
 エルとレビデムお戦ふ。モーセ、コシエアに言けるは我等のため

お人を探し出てアマレクと戦へ。明日我神の杖を手おとりて岡の
 嶺に立ん。ナコレエアするはちモーセの已に言しごとくは爲じ。ア
 マレクと戦ふモーセ、アロンおよびホルハ岡の嶺に登り去る。モ
 ーセ手を舉げてバイスラエル勝ち手を垂てバアマレク勝ち。然
 るにモーセれ手重くありたきバアロンとホル石をとりてモーセ
 の下におきてろの上に坐せ。あめ一人の此方一人の彼方ありて
 モーセの手を支へたり。あかむろの手日の没まで踵下さりき。是
 おおいてヨセフア刃をもてアマレクどろの民を敗せり。エホバ
 モーセに言たまひける。之を書に筆して記念となし。ヨセフアの
 耳おこきをいとよ我必ずアマレクの名を塗抹て天下にこきを誅
 ゆること無ら。あめんとま。斯てモーセ一座の嶺を録さるの名をニ
 ホバニレ(エホバ晋旅)と稱ふ。モーセ云けらくエホバは實位おむ
 りひて手を舉ることあり。エホバ世々アマレクと戦ひたまはん

第二十八節 一 越おモーセの外舅あるエテアンの祭司エトロ神が凡
 てモーセのため又その民イスラエルのためお爲した立ひし事エ
 ホバダイスラエルをエシプトより導き出したまひし事を聞きニ
 是お於てモーセの外舅エトロウの遣り遣されてありまモーセの
 妻チツボラどろの二人の子を娶へ来るエウの子の一人の名はメ
 ルシロムと云ふ是はモーセ我他國に客となりをると言たれバありロ
 今一人の名はエリエセルと曰ふ是ははるれ吾父の神われを助け我
 を救ひてバロの劍を死なせられたまふと言たれバありニ斯モ
 セの外舅エトロ、モーセの子等と妻をつれて曠野に來りモーセの
 神の山お陣を張る處にいたるニ彼すなわちモーセに言けるハ汝
 の外舅なる我エトロ汝の妻および之と俱なるろの二人の子をた
 づさへて汝お詣るとモモーセ出でろの外舅を迎へ礼をなして之
 お接吻し互おろの安否を問て共お天幕お入るハ面おてモーセエ

ホバダイスラエルのためおバロとエシプト人とお爲たまひし諸
 の事と途にて遭し諸の艱難およびエホバの已等を拯ひたまひし
 事をろの外舅に語りけれをエニトロ、エホバダイスラエルをエシ
 プト人の手より救ひいだして之お諸の恩典をたまひし事を喜べ
 りニエトロすなわち言けるはエホバは頌べき哉汝等をエシプト
 人の手とバロの手より救ひいだし民をエシプト人の手の下より
 拯ひいだせりま今我知るニホバは諸の神よりも大なり彼等皆優
 を逞しうまて事をあせしむエホバおれらに勝りたまひしてモー
 セの外舅エトロ燔祭と犠牲をエホバお持きたれりアロンおよび
 イスラエルの長老等皆きたりてモーセの外舅どもに神の前お
 食をあすま次の日おいたりてモーセ坐して民を審判きまお民は
 朝より夕までモーセの傍に立り言モモーセの外舅モーセの見て民
 に爲どころを見て言けるハ汝お民おあす此事は何あるや何故お

汝は一人坐しをりて民朝より夕まで汝の傍ふたつやモーセの
 外男も言けるは民神も問んどて我も來るなり其彼等事ある時
 は我も來れば我此と彼とを審判きて神の法度と律法を知らむと
 モーセの外男もこれに言けるは汝のあすところ善らず汝かある
 才氣力おどろへん汝も汝ともある民も然らん此事汝も重
 過々汝一人あては之を爲てあたひるべし今吾言を聽け我
 ゐんぢも策を授けん願くは神なんぢともあはれらば法度と律法を教へ彼
 神の前も居り吾言を神も陳よす汝かれらば法度と律法を教へ彼
 等の歩むべき道と爲べき事とを彼等も罪せし又汝全衆の民の中
 より賢くて神を興れ眞實を重んじ利を惡むところの人を選び之
 を民の上も立て千人の司とあし百人の司となし五十人の司とあ
 し十人の司とあすべし而して彼等をて常も民を鞠りまめ大
 事は凡てふれを汝も陳まめ小事凡て彼等もみづからこれを判

らまむべし斯汝の身の煩瑣を省き彼らをして汝とろの任を共
 せしめよ汝も此事を爲し神また斯汝に命じなむ汝はふれも
 勝ん此民もまた安然ゆるの所も到るふとを得べしモーセの
 外男の言もまたあひてろの凡て言しごとく成りしモーセすなりち
 イストラエルの中より遙く賢き人を擇みてふれを民の長とあし千
 人の司となし百人の司となし五十人の司とあし十人の司となせ
 りも彼等常も民を鞠き難事はこれをモーセも陳べ小事は凡て自
 らこれを判けりモ斯てモーセの外男を還したればろの國に往
 ぬ

イストラエルの子孫もシロプトの地を出て後第三月にい
 たりて其日ホシナイの曠野も至るに即ちあるをレヒテムを出た
 ちてシナイの曠野もいたり曠野も暮を張り彼處にてイストラエル
 は山の前も營を設けたり爰もホーセ登りて神も南るもエホバ

山より彼を呼て言たまはく汝はエロフト人我がなしたるどころの事
 の子孫を告べし汝らはエロフト人我がなしたるどころの事
 を見我が驚の翼をのべて汝らを負て我わいたらまめしを見たり
 然を汝等もし善く我が言を聞きわが契約を守らむ汝等は諸の
 民に急りてわが實なるべし全地はわが所有あるべし是等の言語を汝
 は我が對して祭司の國どあり聖き民どあるべし是等の言語を汝
 イスラエルの子孫を告べし七是はわがいてモーセ來りて民の長老
 等を呼びエホバの己に命じたまひし言を盡くろの前に陳たきバ
 民皆等しく應へて言けるはエホバの言たまひし所は皆どきら之
 を爲べしとモーセすならん民の言をエホバに告ぐルエホバモー
 セに言たまひけるは視よ我密雲の中にをりて汝に臨む是民を去
 て我が汝と語るを開あめて汝を永く信ぜまめんがためありとモ
 ーセ民の言をエホバに告たりナエホバモーセに言たまひけるは

汝民の所に往て今日明日を聖め之にろの衣服を淨せし準備
 をなして三日を待て其は第三日にエホバ全体の民の目の前にて
 シナイ山に降ればあり汝民のために四周に境界を設けて言べ
 し汝等慎んで山に登るあるとろの境界に捫るべからず山に捫る
 者のいならず殺さるべし手之に觸べうらず其者のいからず
 石にて撃みろささ或の射ころさるべし獸と人との言生るある
 を得じ喇叭を長く吹鳴さむ人々山上るべしと雷モーセすあり
 ち山を下り民にいたりて民を聖め民の衣服を濯ふまモーセ民
 に言けるは準備をなして三日を待て婦人に近づくべからずある
 くて三日の朝にいたりて雷と電および密雲の上にあリ又喇叭
 の聲ありて甚だ高うり營にある民みる震ふまモーセ營より民を
 引いでよ神に會ふ民山の麓に立にヌシナイ山都て煙を出せり
 エホバ火の中にありてろの上に下りたまへむなりろの煙窟の煙

のこどく立の原り山すべて震ふを嗚咽の聲高くなりゆきての
 けしくありける時モーセ言を出すに神聲をもて應へたまふに
 ホバのナイ山に下りたる山の頂上にあし面してエホバ山は頂
 上にモーセを召たまひけむモーセ上よりエホバモーセに言
 たまひけるに下りて民を懲めよ恐らくは民拒破りてエホバに來
 りて見んとし多の者死るにいたらん又エホバに近くどよろの祭
 司等にろの身を潔めまめよ恐くはエホバの怒らむを撃んモーセ
 エホバに言けるに民のナイ山に得のぼらし其の汝わをらを懲
 めて山の四周に境界をたて山を聖めよ言たまひたむなり言
 エホバの是に言たまひけるは往け下れ而して汝とアロンどもに
 上り來るべし但祭司等と民には拒破りて我にのぼりきたらまめ
 され恐らくは我のれらを撃んモーセ民にくだりゆきてこれに
 告たり

神の一切の言を宣て言たまはく

神の一切の言を宣て言たまはく

我は汝の神エホバ

汝をエホブトの地の奴隷たる家より擧ぎ出せし者なり汝我
 面の前も我の外何物をも神とすべからず汝自己のため何の
 偶像をも彫むべからず又上天にある者下り地ある者らび
 に地の下は水の中にある者の何れ形状をも作るべからず之を
 拜むべからずことふ事ふべからず我エホバ汝の神の嫉む利ある
 我を惡む者ふむかひて父の罪を子にむいて三四代におよ
 ぼし我を愛しわが命を守る者ふは思恵をばせよして千代に
 いたるなり汝の神エホバの名を妄に口をあやべうらすエホバ
 はこの名を妄に口にあゆる罪を罰せよかざるべし安
 息日を憶えてみれを聖潔すべし六日は間勞きて汝の一切の業
 を爲べし十七日の汝の神エホバの安息あるを何の業をも爲べ
 らす汝も汝の子息も汝の僕婦も汝の家畜も汝の門の中に

をる他國の人も然り其のエホバ六日の中に天と地と海と其等の
 の中の一切の物を作りて第七日お息みたればあり是をもてエホ
 バ安息日を祝ひて聖日と去たまふは汝は父母を敬へ是は汝の神
 エホバの汝おたまふ所の地に汝の生命の長うらんためあり汝
 殺すなれば言汝姦淫するあるは汝盜むなれば汝の隣人に對
 して虚妄の証據をたつるなるは汝の隣人の家を食するあかき
 又汝の隣人の妻あよびろの僕婢牛驢馬ならびお見て汝の隣人の
 所有を食するあるは夫民みな雷と電と喇叭の音と山の煙るどを見
 たり民これを見て懼きをせよきて遠く立ち去れしはひける
 は汝おさらし語き我等聽ん唯神の我らお語りたまふことあらさ
 らためよ恐く我等死んぞし民お言けるは畏るよあかき神
 汝らを試みんため又それ異怖を汝らの面は前におきて汝らお罪
 を犯さしめためんため臨みたまへるなり是はおいて民と遠

くお立ちしはモーセの神の在すところの濃雲お進みいたる
 ホバ、モーセお言たまひけるは汝イスラエルの子孫お斯いふべし
 汝等は天よりわが汝等に語ふを見たり汝等何を我おあらべ
 て造るべあらす銀の神をも金の神をも汝らのために造るべあら
 す言汝は壇を我お築きてその上お汝の燔祭と酬恩祭汝は羊と
 牛をろあふべし我は凡てわが名を憶え志むる處おて汝お臨みて
 汝を祝まんは汝もし石の壇を我おつくるあらを琢石をもて是
 を築くべかりす其は汝もし聖をみよお當あは之を汚すべけは
 あり汝壇よりお壇お升るべかりす是汝の恥る處れるの上に
 露るよことありらんためあり
 第一節 是は汝の民の前お立べき律例あり汝へブルの僕を
 買ふ時と六年の間之に職業を爲しめ第七年おは順を索すしてふ
 息を釋つべし彼もし獨身にて來らむ獨身おて去べし若妻あら

をろの妻こまどよもに去べし口もしろれ主人こまに妻をあたへて男子又ハ女子みよを生れたらむ妻どろの子等は主人に属すべし彼は獨身カ去べし僕もし我わが主人どどが妻子を愛す我釋たるよを好まずと明白カ言ハハるの主人こまを士師の所に携ゆき又戸あるひは戸柱の所あつてもくべし而して主人誰をもてあまの耳を刺どはすべし彼は何時までもこれ事ふべきあり七八若ろの娘を賣て婚どなす時ハ僕のごとくお去べらすハ彼もしをの約せし主人の心に適ざる時はろの主人みきを願はしむることを得べし然ど之ハ眞實ちらずして亦こまを異邦人ハ賣みどをみすを得べからず又もし之を己の子に與へんと約しあバみよを女子のごとくお待ふべし又父もしろれ子のためお別に娶るゑどあるども彼に食物と衣服を與ふる事どろの交接の道どハみれを間斷まむべからず其入られに此三を行はずバ彼は金をつ

くけハすして出さることを得べし主人を撃て死しめたる者は必ず殺さるべし若人みづらら畫策ことあきに神人をろの手おらしめたまふことある時は我汝のため一箇け處を讀くまばろの人其處に逃るべし昔人もし故にろの隣人を謀りて殺す時は汝みきをわら壇よりも執へきて殺すべしまろの父あるひは母を撃ものハ必ず殺さるべし主人を拐帶したる者は之を賣たるも尙ろの手にあるも必ず殺さるべしまろの父あるひは母を罵る者は殺さるべし主人相争ふ時ハ一人石またハ拳をもてろに對手を撃ちしハ死にいたらずして床おつくみどあらんに若起あがりて杖によりて歩むあいたらち之を撃たる者ハ殺さるべし但し若れ業を休める賠償をあして之を全く愈しむべきあり年人もし杖をもてろの僕あるひは婢を撃んあろの手け下ハ死を必ず罰せらるべし然ど彼もし一日二日生けびるバ其人ハ罰せらざるべ

し彼らの人の金子をばり三人もし相争ひて妊める婦を撃ち
 ちろの子を墮させんか別に害あき時ハ必ずその婦人の夫れ要む
 る所はしたぐひて刑らま法官は定むる所を爲べし若し若ある時
 は生命にて生命を償ひ目には目を償ひ齒にて齒を償ひ手にて
 手を償ひ足にて足を償ひま燎にて燎を償ひ傷にて傷を償ひ打傷
 にて打傷を償ふべし人もしその僕れ一れ目あるひの婢れ一れ
 目と撃てふれと喪さばそれ目れたために之と釋つべし又もし
 の僕の一箇の齒の婢れ一箇の齒を打落ばその齒のために之を釋
 つべし又牛もし男あるひの女を御て死さめばその牛の主人は罪を
 石にて撃殺すべしそれ肉の食ふべからず但しその牛の主人は罪を
 し然と牛もし素より衝くふとをなす者にしてそれ主ふれざら
 めに忠告をうけし事あるに之を守りおらずして遂に男あるひの
 女を殺すに至らばめらばそれ牛の石にて撃れその主もまた殺さ



るべし若彼贖罪金を命せられんば凡てその命せられし者を生
 めの償に出すべし男子を御も女子を御も其の例にまたぐひて
 るすべし牛もし僕あるひの婢を御ばその主人は銀三十シケル
 を與ふべし又その牛の石にて撃ふるすべし人もし坑を啓くる
 又人もし穴を堀こををふしこを覆はずして牛あるひの驢馬
 ふれに陥ら言穴の主ふきを償ひ金をうけ所有主に與ふべし但し
 ろの死たる畜己の有どあるべし此人の牛もし彼人のを衝殺
 さば二人の生の牛を買てその償をわつつべし又その死たるの
 をも分つべし然とろの牛素より衝ふとをなす者あるふと知を
 るにろの主ふれを守りおろきりあからばその人かからず牛をも
 て牛を償ふべし但しその死たる者己の有どあるべし
 は五の牛をもて一の牛を賤ひ四の羊をもて一の羊を賤ふべし

もし盜賊の境り入るを見て、それを奪て死なむる時は、これがため
 に血とるがすに及ばず、然と若日いでよりあらむため、
 に血をみるすべし。盜賊は全く償をふすべし。若物あらざる時は、身
 をうりてその竊める物を償ふべし。若その竊める物實に生て
 の手ああらば、その牛、驢、馬、羊たるあかまはらず、借してこを償ふ
 べし。人もし田圃あるひは葡萄園の物を食はせ、その家畜をぬ
 ちて人の田圃の物を食ふにいたらまひる時は、自己の田圃の嘉物
 と自己の葡萄園の嘉物をもてその償をふすべし。火もし過て、
 棘にうつりその積あけたる穀物あるひは未だ刈ぎる穀物あるひ
 は田野を燬、その火を焚たる者かならず、こを償ふべし。人も
 し金あるひは物を人に預るもの人の家より竊みどらきたる時
 は、その盜者あらはさむことを借して償はしむべし。盜者もし
 あらば、その家の人を法官につれ、もきて彼がその人の物に手

をかけたるや否を見るべし。何の過愆を論ず、牛にもあき、驢馬に
 もあき、羊にもあき、衣服にもあき、又は何の失物にもあき、凡て人の
 見て是其ありと言ふ者ある時は、法官の兩造の言を聴べし。而し
 て法官の罪ありとする者、ふを借してその對手に償ふべし。人
 もし驢馬、牛、羊、又はその他の家畜をその隣人にあづけんあ
 死し、傷けらるるか、又は拾ひさらるまふとありて、誰もこれを見し
 者なき時は、二人の間、その隣人の物に手をかけず、ユホバを
 指て、罰ふまふあるべし。然る時は、その持主、これを承諾べし。彼人は
 償をふすべし。及ばず、然と若自己の許より竊まれたる時は、その所
 有主、これを償ふべし。若またその製ころされし時は、其を証據
 のため、所持きたるべし。その製ころされし者は、償ふふあよをす
 人も、しその隣人より借たる者、あらん、その物、傷けられ、又、死
 んどありて、その所有主、うれども、にをらざる時は、必ず、みれを償

ふべしまうの所有主なりれど其おをらばみれを償ふおまばす雇し者なる時もまがり其は雇れて来り志あるべありまし人もし聘定あらざる處女を請ひてみよと寝たらば必ずみれに聘禮去て妻となすべしまうの父もしみよをろの人お與ふるよとを固く拒まば處女おする聘禮おてらまて金をもらふべし其魔術をつかふ女を生しおくべからず凡て畜を犯す者を必ず殺すべし其水バをおきて別の神お犠牲を献る者を殺すべし其他國の人を憎すべからず又みれを虐ぐべからず汝らもエジプトの國にをる時は他國の人たりまあり汝凡て寡婦あるひは孤子を憐れすべからず汝もし彼等を憐れして彼等且れに呼らば我らあらずの號呼を聽べし言わお怒烈しくあり我劍をもて汝らを殺さん汝らの妻の寡婦となり汝らの子女は孤子となり汝もし汝らも汝らにあらわが民の貧き者お金を貸す時お金貸のごとくあすべうらず又

これより利足をとるべうらず汝もし人の衣服を質にとらば日のいる時までにこれを歸すべし其の身の身を蔽ふ者は是のまにして是のろの膚の衣あるべあり彼何の中お寝んや彼われに餓いらば我らさるん我ら慈悲ある者あるなり汝神を罵るべうらず民の主長を誣ふべうらず汝の豊満なる物汝は榨りたる物とを献ぐることを怠たるありき汝は長子を我ら與ふべし汝また汝は牛と羊をも斯あすべし即ち七日母とよもにをらまめて八日にこれを我ら與ふべし汝等は我の聖民とあるべし汝らは野おて獸に裂れし者の肉を食ふべうらず汝らみれを犬に投與ふべし

第二十三

汝虛妄の風説を言ふらすべからず惡き人ど手をあ

せて人を誣る証人とあるべうらず汝衆の人にまたがひて惡をあすべうらず訴訟おおいて答をあすお方りて衆の人おまたがひ

て道を曲へりらずニ汝また貧き人の訴訟を曲て庇くべからず
 汝もし汝の敵の牛あるひと驢馬の迷ひ去る遺りありずみきを
 牽てろの人を歸すべシニ汝もし汝を惡む者の驢馬のろの負の下
 お作き臥すを見バ償みてこきを遣さるべからず必ずこきを助け
 てろの負を釋べシニ汝貧き者の訴訟ある時あうの判決を曲へり
 らず七虚假の事お違りき無辜者ど義者どいこきを殺すありき我
 の惡き者を義とするふとあらざるありニ汝賄賂を受へりらず賄
 賂の人の目を暗まし義者の言を曲しむるありニ他國の人を虐
 べふらず汝等ハエジプトの國おをる時ハ他國の人おてありたき
 バ他國の人の心を知ありニ汝六年の間汝の地お種播きろの實を
 獲いるべシニ但し第七年おいふきを息ませて耕さずおおくべシ
 而して汝の民の貧き者お食ふを得せしめよ其餘ざる者の野
 の穀みきを食へん汝の葡萄園も橄欖園も斯のおとくあるべシニ

汝六日の間汝の業をふし七日お息むべシ斯汝の牛および驢馬を
 息ませ汝の婢の子および他國の人をして息をつかしめよニわが汝
 お言し事お凡て心を用ひよ他の神々の名を稱ふべからずまた之
 を汝の口より聞えしめきき汝年お三度わがためお節籠を守る
 べシニ汝無雨パンの節籠をまもるべし即ちわが汝お命ぜしむと
 くアヒアの月の定の時おおいて七日の間酔いきぬパンを食ふべ
 し其のろの月お汝エジプトより出たきバあり徒手おてわが前お
 出る者あるべからずまた積貯の節籠を守るべシ是すあはち汝
 が勞苦て田野に播る者の初の實を祝ふあり又收穫の節籠を守る
 べシ是すあはち汝の勞苦によりて成る者を年の終お田野より取
 盡る者ありニ汝の男たる者ハ青年お三次主エホバの前お出べし
 汝わが犧牲の血を踏いきしパンとよもふ献ぐべからず又わが
 節籠の脂を翌朝まで残しおくべからず汝の地に初お結べる實

の初を汝の神エホバの室お持きたるべし汝山羊羔をろの母の乳
 おて養へらす汝をわが備へし處お導らしめん汝等ろの前お誦
 をりろの言おしたぐへ之を怒らするおかき彼なんぢらの咎を赦
 さるべしわが名ろきの中おあれバあり汝もし彼が言おまた
 ぐひ凡てわが言おふろを爲バ我あんぢの敵の敵となり汝の仇の
 仇となるべし汝が使汝おさきだちゆきて汝をアモリ人、ヘ
 ヲリ人、カナン人、ヒビ人、およびエブス人お導きいたらん我
 らを絶べし汝うれらの神を拜ひべりらすみれに奉事べりらす
 彼らの作にならふなうき汝其等を悉く毀ちろの偶像を打摧くべ
 し汝等の神エホバに事へよ然バエホバ汝らのパンと水を脱し
 汝らの中より疾病を除きたらん汝の國の中に流産する者
 なく妊ざる者ありるべし我汝の日の敵を盈さん我わが畏懼を

あんぢの前に遣し汝が至るおみろの民をよびて敗り汝の諸
 の敵を去て汝お後を見せためん我黃蜂を汝の先おつゝらん
 是ヒビ人、カナン人およびヘブス人を汝の前より逐えらふべし我
 かぢらを一年の中おん汝の前より逐はらしむ恐く土地荒き野
 の獸増て汝を害せん我漸々おるきらを汝の前より逐えらはん
 汝らお還お増てろの地を獲おいたらん我あんぢの境をさだめ
 て紅海よりヘリシヤ人の海おいたらせ曠野より河おいたらしめ
 ん我この地お住る者を汝の手に付さん汝らを汝の前より逐
 はらふべし汝らおよび彼らの神と何の契約をもなすべ
 らす汝ら汝の國お住べきおあらず恐く彼ら汝をして我
 罪を犯さめん汝もし彼等の神お事おるの事ならず汝の機
 檻おあるべきあり又モいせお言たまひたる汝アロン、ナダブ、アヒウ

よびイスラエルの七十人の長老どもにエホバの許に上りきた
 き而して汝等遙にたちて拜むべしニモーセ一人ニホバに近づ
 べし彼等の近るべからず又民ももきどもに上るべからずニモ
 ーセ來りてエホバの許の言ふよびの許の典例を民に告ま民
 とも同音に應て云ふエホバの宣ひし言の指をらるるを爲す
 二モ一セエホバの言をふとく書記し朝風に與いでよ山の麓
 に壇を築きイスラエルの十二の支派にあたがひて十二の柱を建
 て而してイスラエルの子孫の中の少き人等を遣はしてエホバ
 に燔祭を献げあめ牛をもて酬恩祭を供へあむホモ一七時にろの
 血の半をとりて鉢に盛り又ろの血の半を壇の上に灌げり而し
 て契約の書をとりて民に誦きくせたるに彼ら應へて言ふエホバ
 の宣ふ所の指をらるるを爲て進ふべしとハモーセすありちろ
 の血をとりて民に灑ちて言ふ是すありちエホバガ此諸の言につ

きて汝と結たまへる契約の血ありと斯てモ一七アロンテナダゲ、ア
 ビウおよびイスラエルの七十人の長老のぼり仰きて「イスラエ
 ルの神を見るにろの足の下ふに透明る青玉をもて作ることを
 物ありて麗なる天空おさも似たりと神のオエラエルの此頭人等
 しろの手をのけたまひざりき彼等の神を見及食飲をふせり
 二エホバ、モーセお言たまひけるに山上りて我に來り其處にを
 きて我わが彼等を歎へんために書しるせる法律と誡命を載ると
 ろの石の版を汝に與へんニモーセの従者ヨシユアどもに起
 あがりモーセのぼりて神の山に至る言時に彼長老等に言ける
 我等の汝等に歸るまで汝等の此に待ちをき視よアロンとホル汝
 等どもに在り見て事ある者の彼等にいたるべしと而してモー
 ーセ山にのぼり去り雲山を蔽ひをるまらずありちエホバの榮光
 二山の上に駐りて雲山を蔽ふと六日ありと七日にいたりて

エホバ雲の中よりモーセを呼ばたまふ。エホバの榮光山の巔に燃
 る火のごとくにイストラエルの子孫の目に見えたり。大モーセ雲の
 中に入り山に登きりモーセ四十日四十夜山に居る

エホバ、モーセに告て言たまひける。ニイストラエルの
 子孫に告て我に獻物を持きたれと言へ。凡てその心好んで出す
 者より汝等々の我を獻ぐるどころの物を取れ。汝等よりれ
 らより取べきもの。獻物の是あり。即ち金、銀、銅、青、紫、紅の線、麻、
 山羊毛、赤染の牡羊の皮、羶の皮、合歡木、燈油、塗膏と馨しき香を
 調ふところの香料。瑤珉、瑪瑙、水晶、琥珀、瑪瑙、青、紫、紅の線、麻、
 ガため、聖所を作るべし。我われらの中、住ん。凡てわが汝ら
 前す。どろろを御ひ。幕屋の式様。よびろの器具の式様。また、夕ひ
 て、みれを作るべし。十彼等合歡木をもて櫃を作るべし。ろの長、二
 キニヒト半。ろの洞、一キニヒト半。ろの高、一キニヒト半。ろの長、二

し。汝純金をもて之を蔽ふべし。即ち内外ども、これを蔽ひ。ろの
 上の周圍、金の線を造るべし。汝金の環、四箇を鑄て、ろの四の足
 につくべし。即ち此旁、二箇の輪、彼旁、二箇の輪をつくべし。汝
 また合歡木をもて、櫃を作りて、こま、金を着すべし。而て、ろの
 櫃を櫃の邊、旁の環、さし、いれて、こまをもて、櫃を昇べし。櫃の櫃
 の環、さし、いさ、おくべし。其より、腕は、なすべからず。汝わが、汝お、與
 ふる律法を、ろの櫃、お、藏ひ、べし。汝純金をもて、贖罪所を造るべし。
 ろの長、二キニヒト半。ろの洞、一キニヒト半。ろの長、二キニヒト半。ろの長、二
 もて、二箇のケルヒムを作るべし。即ち、撻、あて、打て、これを作り、贖罪
 所の兩傍に置べし。一のケルヒムを、此旁に、一のケルヒムを、彼旁
 に、造り、即ち、ケルヒムを、贖罪所の兩傍に、造るべし。ケルヒムを、彼旁
 を、高く、展べ、ろの翼をもて、贖罪所を、掩ひ、ろの面を、互に、相向くべし。
 す。ろの、ケルヒムを、贖罪所に向ふべし。三、汝贖罪所を、櫃の上

に置かざた我の汝に與ふる律法を櫃の中に藏むべし其處にて我あんぢぢ會ひ照罪所の上より律法の櫃の上なる二箇のケルヒの間にありて我イヌラエルの子孫のためふは汝の命ぜんとする諸の事を汝の諸人に汝また合歡木をもて案を作るべし其の長は二キエビトの測り一キエビトの高り一キエビト半なるべし而して汝純金をこきに着せろの周圍に金の縁をつくるべし汝の四圍に掌意の邊をつくりろの周圍に金の小縁を作ろの環をつくりべし環の邊の側に附べし是は案を昇どころの柱をいり處あり又また合歡木をもてろの柱をつくりてこれに金を着すべし案はふきに因て昇るべきあり汝また共に用ふる圓是の杓および酒を灌ぐとふるの聲を作るべし即ち純金をもてふを造るべし汝案の上の供前のパンを置て常にわが前にあり去

むべし汝純金をもて一箇の燈臺を造るべし燈臺は鏡をもてうちて之を作るべしろの臺座、軸、節、花の其は聯らまむべし又六の枝をろの旁より出まむべし即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺の三の枝の彼旁より出しむべし巴旦杏の花の形せる三の葉節および花とよもに此枝にあり又巴旦杏の花の形せる三の葉節および花とよもに彼枝にあるべし燈臺より出る六の枝を皆斯のごとくにすべし巴旦杏の花の形せる四の葉の節および花とよもに燈臺あるべし二箇の枝の下に一箇の節あらまめ又ろの兩箇の枝の下に一箇の節あらまめ又ろの節あらまむべし燈臺より出る六の枝とよもに是のごとくなるべし又ろの節と枝と其の連らまめ皆純にて打て純金をもて造るべし又ろの照さしむべし又ろの燈針と剪燈盤をも純金あらしむべ

し、燈臺と此の諸の器具を造るには純金一タラントを用ふべし
 早汝山にて示されし式様にまたがひて之を作ることを心を用ひ
 よ
 幕屋のたれふ十の幕を造るべし、その幕は即ち
 麻の懸絲青紫および紅の絲をもて之を造り精巧なケルピムを
 の上に織出せ、その幕の長は二十八キユピト一の幕の闊は
 四キユピトあるべし、幕は皆その寸尺を同し、その幕五箇
 を互に連ねあはせ、又その他の幕五箇をも互に連ねあひすべし、
 而してその一の幕の邊においてその聯絡處の端に青色の襷を
 付べし、又他の一の幕の聯絡處の邊も斯なをべし、汝一の幕の
 幕に襷五十をつけ、又他の一の幕の聯絡處の邊も襷五十をつ
 け、斯らの襷をて彼と此と相對せまひべし、而して金の銀五十
 を造り、その銀をもて幕を連ねあひせて一の幕屋とあそべし、七

また山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋の上の蓋となせ、即ち
 幕十一をつくるべし、その一の箇の幕の長は三十キユピト、その一
 箇の幕の闊は四キユピトあるべし、即ちその十一の幕は尺寸を一
 あそべし、而してその幕五を一お聯ね、またその一の幕六を一お聯ね
 ろの第六の幕を幕屋の前お摺ひべし、又その一の幕の邊もあ
 り、その聯絡處の端も襷五十をつけ、又他の一の幕の聯絡處も
 も襷五十をつけ、而して金の銀五十を作り、その銀を襷にあけ
 てその幕を聯ねあひせて一とあそべし、その天幕の幕の餘れる
 遺餘すなり、その餘れる半幕を幕屋の彼お垂あひべし、天幕
 の幕の餘れる者は此旁お一キユピト、彼旁お一キユピトあり、之を
 幕屋の兩傍此方彼方お垂て、それを蓋ふべし、汝赤く染たる牡山
 羊の皮をもて幕屋の蓋をつくり、その上お襷の皮の蓋をほど、す
 べし、汝合歡木をもて幕屋のために堅板を造るべし、一枚の板

の長ハ十キニヒト一枚の板の潤ハ一キニヒト半あるべしモ板を
 どお二の押をつくりて彼ど此ど交措まめよ幕屋の板ハ皆斯の
 ごとく爲べし汝幕屋のためハ板を造るべし即ち南向の方のた
 めハ板二十枚を作るべし而してその二十枚の板の下ハ銀の座
 四十を造るべし即ち此板の下ハその二の押のためハ二の座あ
 らまめ彼板の下ハその二の北の方のためハ板二十枚を作るべ
 幕屋の他の方すハその北の方のためハ板二十枚を作るべ
 し而してみれハ銀の座四十を作り此板の下ハ二の座彼板の
 下ハ二の座あらまむべし幕屋の後すハその西の方のた
 めハ板六枚を造るべし又幕屋の後ハ兩ハ隅ハためハ板二枚を
 作るべし其の二枚ハ下ハて相合せまめその頂まで一に連ら
 らまむべし一箇の銀ハ於て然りその二枚どもハ是の如くあるべし
 其等ハ二の隅のためハ讀くる者あり其の板ハ合て八枚その銀

の座ハ十六座此板ハ二の座彼板にも二座あらしむべし汝
 合歡木をもて横木を作り幕屋の此方の板のためハ五木を設くべ
 しまた幕屋の彼方の板のためハ横木五木を設け幕屋の後すハ
 うちろの西の方の板のためハ横木五木を設くべし板の真中に
 ある中間の横木をハ端より端まで通らまむべし而してその板
 ハ金を着せ金をもて之がためハ銀を作りて横木をみれハ貫き又
 其の横木ハ金を着そべし汝山ハて前されしところのその模範
 ハまた夕ひて幕屋を建べし汝また青紫紅の線ハよ麻の燃糸
 をもて幕を作り巧ハケルヒムをその上ハ織いだそべし而して
 金を着たる四木の合歡木の柱の上ハ之を掛べしその鉤ハ金ハま
 らの柱ハ四の銀の座の上ハ置べし汝その幕を銀の下ハ掛け其
 處ハその幕の中に律法の櫃を藏むべしその幕そなハ汝らのた
 めハ聖所と至聖所を分たん汝至聖所にある律法の櫃の上ハ願

罪所を置べし置而して之の幕の外に案を置き幕屋の南の方にて櫃を置き案の對ははむべし案は北の方に置べし又青紫紅の線をよび麻の捻糸をもて幔を織みして幕屋の入口に掛べし又ろの幔のために合歡木をもて柱五木を造りてみれに金を着せろの鈎を金にそべし又ろの柱のために銅をもて五箇の座を鑄べし鈎を金にそべし又ろの柱のために銅をもて五箇の座を鑄べし

第廿七章 汝合歡木をもて長五キニヒト潤五キニヒトの壇を作るべしろの壇は四角の高は三キニヒトあるべしろの四隅の上に其の角を作りてろの角を其より出せめろの壇は銅を着せべし又衣を受る蓋と火鐘と鉢と肉又火鼎を作るべし壇の器は皆銅をもて之を作るべし汝壇のために銅をもて金網を作りろの網の上にろの四隅に銅の環を四箇作るべし而してろの壇の中程の邊の下に置て之を壇の半に連せえむべし又壇のために銅を作るべし即ち合歡木をもて柱を造り銅をふれに着せ

べしろの柱を環に貫きろの柱を壇の兩傍にあちあちて之を昇べし壇は汝板をもて之を空に造り汝が出て扉をされしとどくみれを造るべし汝また幕屋の庭をつくるべし南に向ひては庭のために南の方に長百キニヒトの細布の幕を設けてろの一方に置べしろの二十の柱はおよびろの二十の座は銅にし其柱の鈎はおよびろの桁は銀にそべし又北の方にあたりて長百キニヒトの幕をろの縦に敷くべしろの二十の柱とろの柱との二十の座は銅にあま柱の鈎とろの桁は銀にそべし庭の横をあちろの西の方には五十キニヒトの幕を敷くべしろの柱は十の座も十また東に向ひては庭の東の方の潤は五十キニヒトにすべし而して此一旁に十五キニヒトの幕を敷くべしろの柱は三の座も三また又一旁に十五キニヒトの幕を敷くべしろの柱は三の座も三また三また庭の門のために青紫紅の線をよび麻の捻糸をもて織みし

たる二十キエヒトの帳を設くべし。ろの柱は四ろの座も四ろの庭の四周の柱は皆銀の桁をもて續けろの鈎を銀にしろの座を銅もそべし。大庭の纒は百キエヒトろの横は五十キエヒト宛ろの高は五キエヒト。麻の摠糸をもてつくりあしろの座を銅もそべし。凡て幕屋も用ふるどろの諸の器具並にろの釘および庭に釘は銅をもて作るべし。又イストラエルは子孫に命じ橄欖を搗て取たる清き油を燈火のため汝あ持ちたらまめて絶す燈火をどもそべし。三集會の幕屋も於て律法の前ある幕の外わアロンどろの子等晚より朝までエホバの前あろの燈火を燃ふべし。是はイストラエルの子孫お世々たえず守るべき定例なり。

第二節 第八節

汝イストラエルの子孫の中より汝の兄弟アロンどろの子等すあいちアロンどろの子ナダブ、アビウ、エレアザル、イタマルを汝も至らゑめて彼を志て我あむひびて祭司の職をなさまむべ

し。汝また汝の兄弟アロンのためお聖衣を製りて彼の身お顯榮と榮光あらまむべし。汝凡て心お智慧ある者そあいち我が智慧の靈を充しあきたる者等お語りてアロンの衣服を製まめ之を用てアロンを聖別て我あ祭司の職をなさまむべし。彼等が製るべき衣服は是あり即ち胸牌、エホデ、明衣、間椅の裏衣、頭帽および帶、彼等汝の兄弟アロンどろの子等のためお聖衣をつくりて彼を志て祭司の職を我あむひびてなそことをえせまむべし。即ち彼等金、青、紫、紅の糸および麻糸をとりて用ふべし。又金、青、紫、紅の線および麻の摠糸をもて巧まエホデを織あそべし。エホデには二の肩帯をはどみし。ろの兩の端を連ねて之を合をべし。エホデの上あありてこれを束ぬるところの帯はろの物同うしてエホデの製れごとくあすべし。即ち金、青、紫、紅の糸および麻の摠糸をもてみれを作るべし。汝二箇の葱珥をとりてろの上あイストラエルの

ひつけエホアの帯の上にあらしむべし然せば胸牌エホアを離る
 よこと無るべしエアロン聖所に入る時いろは胸あある審判の胸
 牌にイストラエルの子等の名を帯てこれをろの心け上に置きエホ
 アの前に恒に記念とあらまむべし手汝審判の胸牌にウリムとシ
 ムをいきアロンをあてろけエホバは前に入る時にこをろの
 心け上に置しむべしアロンのエホバは前に常にイストラエルは子
 孫は審判を帯てろけ心け上に置べしエホアに属する明衣の凡
 てこきを青く作るべし頭をいろく孔いろの真中に設くべし又
 ろの孔の周圍に織物の縁を付けて鐘の領盤のごとくになして
 之を結びざらまむべしいろの帯に青、紫、紅の糸をもて石榴を
 けくりてろの帯の周圍にけ又四周に金の鈴をろの間々にけ
 べし即ち明衣の帯に金の鈴に石榴又金の鈴に石榴どろの周
 圍おけくべしアロン奉事をあす時あふれを着べし彼等聖處お

いらてエホバの前お至る時また出きたる時おはろの鈴の音聞ゆ
 べし斯せば彼死るまどあらじ汝純金をもて一枚の前板を作り
 印を刻ぐごとくおろの上おエホバに聖と銅けけ之を青細にけ
 けて頭帽の上おあらまむべし即ち頭帽の前の方あふれをけくべ
 し是はアロンの領ああるべしアロンはイストラエルの子孫が結
 ぐるどろの聖物するいろの結ぐる諸の聖き供物の上あある
 どろの罪を負べしこの板をを常おアロンの領ああらまむべし
 是エホバの前お其等の受納られんためあり汝麻糸をもて裏衣
 を間格お織り麻糸をもて頭帽を製りまた帯を織工お織るそべし
 早汝またアロンの子等のためお裏衣を製り彼らのためお帯を製
 り彼らのために頭巾を製りてろの身に即榮と榮光あらまむべし
 思面して汝ふれを汝の兄弟アロンおよび彼どもあるろの子等
 お着せ帯を彼等に濫きふれを立てふれを聖別てふれをして祭司

此職を我に命ぜりしは又ウレラのためなるの陰所を蔽ふ麻
 の褲を製り履より脚に連らまひべし是アロンとろの子等は集會
 の幕屋に入る時又は祭壇に近づきて聖所に職事を命ず時はみれ
 を着べし斯せを愆をうりひりて死るみどるくらん是は彼および
 彼の後の子孫の永く守るべき例あり
 汝の彼れらを聖別て彼らを去て我にむらひて祭司の職
 をなさまひるふは斯これお爲べし即ち若き牡牛と二の全き牡山
 羊を取り無酵パン油を和たる無酵菓子および油を塗たる無酵
 煎餅を取べし是等は麥粉をもて製るべし而してみれを一箇の
 徳むいれ牡牛れよび二の牡山羊とよもみれをろの筐のまよお
 持きたるべし汝またアロンとろの子等を集會の幕屋の口お携
 きたりて水をもてみれらを洗ひ清め衣服をとりて裏衣、エホテ
 に属する明衣、エホテれよび胸牌をアロンに着せエホテの帯と之

お帯をむべし而してみれの首お頭帽をむひらせろの頭帽の上
 なるの聖金板を戴め七灌油を取てみれを彼の首お傾け灌ぐべ
 し又これの子等を携來りて之お裏衣を着せ九之お帯を帯えめ
 頭巾をみれおむらすべし即ちアロンとろの子等お斯なすべし
 祭司の職はみれらお歸す永くみれを例となすべし汝斯アロンと
 ろの子等を立べし汝集會の幕屋の前お牡牛をひき來らまひべ
 し而してアロンとろの子等ろの牡牛の頭お手を扱べしかくし
 て汝集會の幕屋の口おてエホバの前おろの牡牛を宰すべし汝
 ろの牡牛の血をとり汝の指をもてこれを壇の角お塗りろの血を
 ろのこどし、く壇の下お灌ぐべし汝またろの臍を裏むどころ
 の諸の脂、肝の上の網膜れよび二の腎とろの上の脂を取てみれを
 壇の上お燻べし言但しろの牡牛の肉とろの皮れよび糞は餘の外
 みて火お燒べし是は罪祭あり汝ろの牡山羊一頭を取るべし而

してアロンどのの子等々の牡山羊の上お手を扱べし汝らの牡山羊を宰しらの血をとりてそれを壇の上の周圍に澆ぐべし汝られ牡山羊を切創きらの臙膈どの足を洗ひて之をらの肉の塊どのの頭れ上ふれくべし汝らの牡山羊を壇の上お悉く焼べし是エホバおたてまつる燔祭なり是ハ朝しき香おしてエホバおたてまつる火祭なり汝また今一の牡山羊をどるべし而してアロンの子の等々の牡山羊の頭の上お手を扱べし汝そなりちるの牡山羊を殺しらの血をとりてみきをアロンの右の耳は端ねよびらの子等の右の耳の端ふつけ又右の右の手の大指と右の足の指指ふつけらの血を壇の周圍に澆ぐべし又壇の上の血をとり澆油をとりて之をアロンどの衣服およびらの子等の子の衣服の衣服を澆ぐべし斯彼どのの衣服およびらの子等の衣服清浄なるべし三汝らの牡山羊の脂と脂の尾およびらの臙膈

を澆る臙膈の上の網膜二箇の腎どのの上の脂および右の臙膈を取べし是ハ任職の牡山羊なり汝またエホバの前おある無酵パンの箇の中よりパン一個と油ぬりたる菓子一個と煎餅一個を取べし汝みれらを悉くアロンの手どのの子等の手お授けみれを搯てエホバお搖祭となそべし三而して汝みれらを彼等の手より取て壇の上おて燔祭おくハへて焼くべし是エホバの前お馨しき香とあるべし是するハエホバおたてまつる火祭あり汝またアロンの任職の牡山羊の胸を取てみきをエホバの前お搯て搖祭とあすべし是汝の受るどみろの分なり汝らの搯どみろの搯祭の物の胸およびらの舉るどみろの舉祭の物の臙膈すなりちアロンどのの子等の任職の牡山羊の胸と臙膈を聖別つべし是ハアロンどのの子等に歸すべしイスラエルの子孫お酬恩祭の犧牲の中よりどるどみろの

子孫の中に居て彼らの神とならん。彼等の我を彼らの神エホバにして彼等の中に住んでて彼等をエホバの地より掃き出せし者なるふとを。知ん我のらさらの神エホバなり。

第二四章

汝香を焚く壇を造るべし。即ち合歡木をもてこれを造るべし。その長一キエヒトの寛も一キエヒトにして四角ならしめ其高の三キエヒト。其角の其より出まひし面してその上の四傍の角どもお純金を着せるの周圍。金の縁を作るべし。汝またたけ兩面に金の縁の下に金の環二箇を之がために作るべし。即ちそのの兩傍にこれを作るべし。是するにちこれを身とてろけ。杠を貫く所あり。そのの杠の合歡木をもてこれを作りて之に金を着せし。汝これを律法の櫃の傍ある幕の前に置て律法の上ある贖罪所に對はしむべし。其處のわが汝に會ふ處なり。アロン朝おどにるの上に藹しき香を焚べし。彼燈火を盛ふる時は

その上に香を焚べきあり。アロン夕に燈火を燃す時。その上に香を焚べし。是香のエホバの前に汝等代々絶すべらざる者あり。汝等若し上に異なる香を焚べらば。汝等燔祭をも獻ぐべからず。又その上に澆祭の酒を澆ぐべらば。汝等燔祭をも獻ぐべし。罪祭の血をもてその壇の角のために贖をさすべし。汝等代々年に一度。是がために贖をさすべし。是のエホバに最も聖き者たるあり。エホバ、モーセに告て言たまひく。汝がイスラエル子孫の數を數へ。まらふるに。あたりにて。彼等の各人その數へらる。時に。その生命の贖をエホバにたてまつるべし。是の數ふる時に。あたりにて。彼等の中に災害のあらざらんため。凡て數へらる。者の中に。入る者。即ち半シタルをエホバ。あたてまつるべし。凡て數へらる。者の中に。入る者。即ち二十歳以上の者。ハエホバ

お献納物をなすべし。汝られ生命を願ふためにエホバに献納物を
 をみそにわたしての富者も半シケルより多く出すべからず貧者
 も其より少く出すべからず。汝イスラエルの子孫より贖金の
 取てこれを幕屋の用に供ふべし。是ハエホバの前にイスラエルは
 子孫の記念となりて汝らの生命を贖ふべし。エホバ、モーセ告
 て言たまひく。汝また銅をもて洗盤を作りたるの臺をも銅にあ
 して洗ふことのために供へ之を集會の幕屋と壇との間お置て
 の中お水をいれおくべし。エロンどろの子等の間お置て手
 足を洗ふべし。手彼等の集會の幕屋に入る時お水をもて洗ふこと
 を爲て死をまぬぐるべし。亦壇おちうづきてその職をなし。火祭を
 エホバの前お焚く時。然すべし。即ち斯ろの手足を洗ひて死を
 免ぐるべし。是ハ彼どろの子孫の代々當お守るべき例あり。エホ
 バまたモーセ告たまひける。汝また重立たる香物を取れ。即

ち淨没藥五百シケル。香しき肉桂うの半二百五十シケル。香しき薑
 瀟二百五十シケル。桂枝五百シケルを聖所のシケルお造ひて取
 り又橄欖の油一ヒンを取べし。汝これをもて聖澁膏を製べし。そ
 ろち無物を製る法おまたるひて香膏を製るべし。是ハ聖澁膏た
 るあり。汝ふれを集會の幕屋と律法の櫃お塗り。毛染どろのもろ
 もろの器具。燈臺どろのもろの器具。および香壇。天並に燔祭の
 壇どろのもろの器具。および洗盤どろの臺とお塗べし。汝是
 等を聖めて至聖らまひべし。凡てふれお捫る者ハ聖くあらん。汝
 アロンどろの子等お膏をうまきて之を立て彼らを志て我お祭司
 の職をおさまひべし。汝イスラエルの子孫お告ていふべし。是ハ汝
 らが代々我のためお用ふべき聖澁膏あり。是ハ人の身に澁ぐべ
 ららず。汝等また此量をもて是ハ等き物を製るべからず。是ハ聖し
 汝等ふきを聖物とあすべし。凡て之お等き物を製る者凡てこれ

を餘人につくる者はその民の中より絶るべし言エホバ、モーセに
 言たまはく汝ナタフ、シケレテ、ヘルベナの香物を取りその香物を
 淨き乳香に和あひすべし若し量り各等しうらまひべきあり言汝
 きを以て香を製るべし即ち薰物を製る法おまたぐひてみ色をも
 て薰物を製り鹽をこきおくはへ深く且聖らまひべし言汝またら
 の幾分を細お搗て我が汝お會ふところある集會の幕屋の中にあ
 る律法の前おふきを供ふべし是は汝等おあいて最も聖き者なり
 言汝お製るどみろの香は汝等らの量をもてこれを自己のためお
 製るべからず是は汝おあいてエホバのために聖き者たるあり言
 凡て是に巧き者を製りてこきを喚ぐ者はその民の中より絶るべ
 し

【第卅一章】エホバ、モーセに告て言たまひけるは我エヌの支派
 のホルの子あるウリの子ベヤレルを名指て召し三神の靈をみき

お充して智慧と了知と知識と諸の類の工お長あり巧を盡し
 て金、銀および銅の作をなすことを得せまめ玉を切り嵌め木に
 彫刻みて諸の類の工をなすを得せまむ大獻よ我またダンの
 支派のアヒサマクの子アホリアブを興へて彼どももあまひ凡
 て心お智ある者お我智慧を授け彼等を末て我が汝お命する所
 事を盡くるさまひべし即ち集會の幕屋、律法の櫃の上の贖罪
 所、幕屋の諸の器具、案ならびおろの器具、純金の燈臺と諸の
 器具、および香壇、燔祭の壇と諸の器具、洗盤と諸の臺、供職
 の衣服、祭司の職をなす時に用ふるアロンの手衣およびろの子等
 の衣服とおよび灌漑ならびに聖所の馨しき香是等を我が凡て汝
 お命せしごとくお彼等製造べきあり言エホバ、モーセお告て言た
 まひけるは汝イスラエルの子孫お告て言べし汝等おあらず吾
 安息日を守るべし是は我と汝等の間の代々の徴おして汝等お我

の汝等を聖らたまはむるエホバなるを知らむる爲の者なれをあり
 昔即ち汝等安息日を守るべし是の汝等も聖日なきをなり凡て之
 を讀そ者の必ず殺さるべし凡てその日働作をなす人はその民
 の中より絶るべし第六日の間業をなすべし第七日の大安息をし
 てエホバも聖らり凡て安息日働作をなす者は必ず殺さるべし
 其斯イストラエルの子孫の安息日を守り代々安息日を祝ふべし是
 永遠の契約あり是の永久の我どイストラエルの子孫の間徹た
 るあり其のニホバ六日の中天地をつくりて七日も休みて安息
 に入たまひたれをありエホバのナイ山にてモーセも語るよと
 を終たまひし時律法の板二枚をモーセも賜ふ是の石の板あして
 刻る手をもて書したまひし者なり

第二節 一抜お民モーセも山を下るこの遇きを見民集りてア
 ロンの許に至り之に言けるの起よ汝わらちを導く刺を我等のた

めに作き其の我らをエホバトは國より導き上りたまはれモーセ其の
 の如何になりたまはれ知さき心なりニアロンもきらに言けるの汝等
 の妻と息子息女等の耳にある金の環をどりはづゑて我に持きた
 是とニ是にわいて民みなるの耳ある金の環をどりてづゑてア
 ロンの許も持来りけきをエホバもみきを彼等の手より取り絶
 をもて之の形を造りて銀を鑄なしたるに人々言ふイストラエルよ
 是は汝をエホバトの國より導きの導りし汝の神なりとエホバも
 みきを見てその前に壇を築き而してアロン宣告て明日のエホバ
 の祭禮なりと言ふ是はあいて人衆明朝早く起いで燔祭を献
 げ祈恩祭を供ふ民坐して飲食し起て戯るエホバもモーセも言た
 まひけるの汝往て下よ汝がエホバトの地より導き出せし汝の
 民も悪き事を行ふあり彼等は早くも我を彼等に命せし道を離
 き己のためお銀を鑄なしてそのを拜み其に犠牲を献げて言ふイ

スラエルよ是は汝をエジプトの地より導きのばりし汝の神ありと
 エホバまたモーセに言たまひけるは我みの民を觀たり視よ是
 と頂の強き民あり然を我を阻るるを我より向ひて怒を
 發して彼等を滅し盡さん而して汝を去て大なる國を築さん
 しとモーセの神エホバの面を和めて言けるはエホバよ汝と
 て彼の大なる權能と強き手をもてエジプトは國より導きい
 したまひし汝の民にむりひて怒を發したまふや如何ぞエジ
 人を去て斯言まひべけんや曰く彼を導き出せしなり然を汝
 し地の面より滅し盡さんと彼等を導き出せしなり然を汝の
 烈き怒を息め汝の民にみの神を下さんとせしを思ひ直したまへ
 汝の僕アブラハム、イサク、イスラエルを憶ひたまへ汝は自己さ
 して彼等に誓ひて我天の星のおとくに汝等の子孫を増し又汝
 言ふとこの此地をよとく汝等の子孫にわたへて永くよと

を有たまめんと彼等に言たまへりよエホバ是に於いての
 民に神を降んとせしを思ひ直したまへりよモーセするのち身を
 轉て山より下れり而の律法の二枚の板の手にあり此板の
 の兩面に文字あり即ち此面にも彼面にも文字あり此板の神の
 作ありまた文字の神の書にして板に彫つてありモシエア民
 の呼ぶる聲を聞てモーセにむらひ營中に戰爭の聲すと聞けしを
 まモーセ言ふ是の聲聞の聲にあらす又敗北の號呼聲にもあらす
 我の聞とるものもこの聲なるなりと期てモーセ營に近づくと
 に及びて鐘と舞踏を見たまふを怒を發してその手より而の板を擲
 ちてを山の下に砕けり手面して彼等が作りし像をどりてこれ
 を火に燒き砕きて粉となしてこれを水に撒きイスラエルの子孫
 に之をのたまひモーセ、アロンに言けるは此民汝に何をなして
 か汝のれらに大なる罪を犯させしやアロン言けるは吾主よ怒

の目の前に思を得たら心願くは汝の道を我に示して我に汝を知
 るめ我を去て汝の目の前に思を得せよまたまた汝の民の汝
 の有るを念たまへ昔エホバ言たまひける我親汝と共にゆく
 べし我汝を去て安泰にあらめんまもいせエホバに言ける汝
 もしみづから行たまはず心我等を此より上らめたまふ勿き
 我ど汝の民ど汝の目の前に思を得るふどは如何にして知るべ
 きや是汝が我等どもお往たまひて我ど汝の民どが地の諸の民
 お異なる者どあるによるにあらずや昔エホバ、もいせに言たまひけ
 る汝が語るふの事をも我爲ん汝のわが目の前に思を得たきと
 あり我名をもて汝を知ありまもいせ願くは汝の榮光を我に示
 たまへと言けれんまもいせエホバ言たまひく我どが諸の善を汝の前
 通らめエホバの名を汝の前に宣ん我の恵んとする者を恵み憐
 まんとする者を憐むあり又言たまはく汝はわが面を見ること

あたりす我を見て生る人あらざれをありて面してエホバ言たま
 ひけるの禮よ我が傍に一の處わり汝磐石上に立べし三香榮光其
 處を過る時に我みんちを磐の穴にいれ我が過る時にわが手をも
 て汝を蔽はん三而してわが手を除る時に汝わが背後を見るべし
 吾面は見るべきにあらす

第卅三章

一 茲にエホバ、もいせに言たまひける

の汝石の板二枚を

前のおとくに研て作れ汝が砕きし彼の前の板にありし言を我ら
 の板に書さん三時朝までに準備ををし朝の中にレナイ山に上り
 山の巔に於て吾前に立て三誰も汝どもに上るべからず又誰も
 山の中に居べからず又羊の山の前にて羊や牛を放ふべからず
 もいせすなりち石の板二枚を前のおとくお研て造り朝早く起て
 手に二枚の石の板をとりエホバの命じたまひしごとくレナイ
 山にのぼりやけりエホバ雲の中にありて降り彼どもに其處

に立ちてエホバの名を宣たまふエホバするに彼の前を過て
 宣たまはくエホバ、エホバ憐憫あり恩恵あり怒ることの遅く恩恵
 と眞實は大なる神七恩恵を千代までも施し惡と過と罪とを赦す
 者又罰すべき者を必ず赦そとをせず父は罪を子に報い子の
 子に報いて三四代におよばす者ハモーセ急ぎ地を躬めて拜
 し五言けるにエホバよ我も汝は目れ前に恩を得たらん願くは
 主我等の中においでして行たまへ是の項の強き民を我等
 の惡と罪を赦し我等を汝の所有と爲したまへエホバ言たまふ
 視よ我契約を爲す我未だ全地を行はれし事あらす何れ國民の中
 にも行はれし事あらざるどころの奇跡を汝の總昧の民の前に行
 ふべし汝が住どころの國民の民みへエホバの所行を見ん我が汝を
 もて爲どころの事怖るべき者あきむるに汝わが今日汝に命
 ずるところの事を守れ視よ我アモリ人、ガナン人、ヘテ人、ベリシ人

ヒビ人、ユブス人を汝の前より逐はらふま汝みづから慎め汝が往
 どころの國民の居民と契約をむすふべからす恐くは汝の中におい
 て梟梟とあることあらんま汝かへ初て彼等の祭壇を崩しるの偶
 像を毀ちるのアレラ像を断たふをべし昔汝の他の神を拜むべ
 らず其はエホバのの名を嫉妬と云て嫉妬神あればあり然ら
 ば汝の地の居民と契約を結ぶべからす恐くは彼等がその神々を
 慕ひて其と姦淫をおこさむひろの神々に犠牲をささぐる時に汝を
 招きてその犠牲に就て食はさむる者あらんま又恐くは汝がれら
 ば女子等を汝の息子等あ妻すことありて彼等の女子等その神々
 を慕ひて姦淫を行ひ汝の息子等をして彼等の神々を慕て姦淫を
 おこさむるにいたらんま汝がのれのために神々を踏み踏すべ
 からす○汝無酔パンの節籩を守るべし即ち我が汝に命せしこ
 どくアヒアの月のその期あふよびて七日の間無酔パンを食ふべ

し其の汝アヒブの月ふエプトより出たれをありま着生たる者は
 皆吾の所有あり亦汝の家畜の首出の牡ある者も牛羊どもに皆
 まりり但し驢馬の首出の羔羊をもて贖ふべし若し贖えずバ
 の頭を折べし汝の息子の中の初子は皆贖ふべし我前に空手にて
 出るものあるべからず三六日の間汝節作ををし第七日に休むべ
 し耕耘時にも收割時にも休むべし三汝七週の節籠するにち麥秋
 の初穂の節籠を爲し又年の終に収穫の節籠をふそべし三年に三
 回汝の男子みな主エホバ、イスラエルの神は前に出べし我國々
 の民を汝の前より逐はらひて汝の境を廣くせん汝が年々三回の
 ぼりて汝の神エホバのまへに出る時に誰も汝の國を取んとす
 る者あらじ汝わが犠牲の血を有時パンども供ふべからず
 又逾越の節の犠牲の明朝まで存しおくべからざるあり汝の土
 地の初穂の初を汝の神エホバの家か攝ふべし汝山羊羔をろの母

の乳にて養べからず期てエホバ、モーセに言たまひけるは汝是
 等の言語を書えん我是等の言語をもて汝およびイスラエルと
 契約をむすべとあり汝がエホバどもに四十日四十夜其處に
 居て食物をも食す水をも飲さざりしエホバの契約の詞ある十
 誡をの板の上に書きたまへり○モーセの律法の板二枚を
 己の手執てシナイ山より下り来ざるの山より下り去時あり
 せはろの面の己がエホバと言ひしによりて光を發つを知さる
 手アロンおよびイスラエルの子孫モーセを見ての面の皮の光
 を發つを視怖きて彼に近づるきりしバ三モーセあるを呼り
 アロンおよび會衆の長等するにちモーセの所に歸りたれをモー
 セ彼等と言ふ三期ありて後イスラエルの子孫みる近よりけれバ
 モーセ、エホバがシナイ山にて已告たまひし事等を盡くこれに
 諭せりモーセりとらと謂ふことを終て覆面帕をろの面にあて

集會の幕屋どうの諸の用に供へ又聖衣のためお供へたう三即ち
 凡て心より願ふ者の男女どもに環、耳環、指環、頸玉諸の金の物を
 描へいたさき又凡て金の獻納物をエホバに爲す者も然せり三凡
 て青、紫、紅の線および麻、綿、山羊の毛、赤染の牡羊の皮、繻の皮ある者は
 是を描へいたり凡て銀および銅の獻納物をあす者のみさを描へ
 きたりてエホバに獻げ又物を造るお用ふべき合歡木ある者の其
 を描へいたさき三また凡て心お智慧ある婦女等いろの手をもて
 紡ぐみどをあしらの紡きたる者ある青、紫、紅の線および麻、綿を
 描へきたり三凡て智慧ありて心お感したる婦人の山羊の毛を紡
 げり又長たる者どもも葱、脂、およびエゴアと胸牌に依べき玉を
 描へいたり三燈火と灌音と馨しき香どに用ふる香物と油を描へ
 いたさき三斯イスラエルの子孫悦んでエホバに獻納物をあせり
 即ちエホバのモーセに藉ておせと命じたまひし諸の工事をあさ

しむるために物を描へきたらんと心より願ふどころの男女の皆
 是のおどくにあしたり○三モーセ、イスラエルの子孫に言ふ、觀よ
 エホバ、ユダの支派のホルの子あるウリの子、バザレルを名指て召
 たまひ三神の靈をこまに充して智慧と了知と知識と諸の類の工
 事に長たぬ三奇巧を盡して金、銀および銅の作をあすことを得せ
 ため玉を切り依め木に彫刻みて諸の類の工をあすことを得せ
 しめ三彼の心を明らにして教ふることを得せためたまふ彼とダ
 ンの支派のアヒサマクの子アホリアア俱に然り三斯智慧の心を
 彼等に充して諸の類の工事をあすことを得せためたまふ即ち彫
 刻、文織、および青、紫、紅の線と麻、綿並に機織等凡て諸の類
 れ工をあすことを得せため奇巧をみさに盡さためたまふあり
 第三卅五章 一倍、バザレルとアホリアアおよび凡て心の穎敏き人即
 ちエホバが智慧と了知をあたへて聖所の用お供ふるどころの諸

の工をみすことを知得せしめたまへる者等のエホバの凡て命じ
 たまひし如くに事をみそへありしニモーセすなはちベザレルと
 アホリアブおよび凡て心の細敏き人するはちろの心おエホバが
 智慧をさづけたまひし者凡る來りての工をみさんど心に望む
 どみろの者を召よせたりニ彼等の聖所の用おるあふるところの
 工事をなさまむるためふオスラエルの子孫が揃へきたりし諸の
 職納物をモーセの手より受どりしが民の尙また朝ごとお自意の
 職納物をモーセに持きたるは是に於て聖所の諸の工をみすどみ
 ろの智き人等みる各々ろの爲どみろの工をやめて來りエモーセ
 お告て言けるは民餘りに多く持きたればエホバが爲せど命じた
 まひし工事をみすお用ふるお餘ありどエモーセすみはち命を傳
 へて營中に宣布おめて云く男女どもに今よりの聖所お職納物を
 なすに及ばずと是をもて民は揃へきたることを止たりセ其はろ

の有どみろの物すでに一切の工をみすに足て且餘われバありハ
 倍彼等の中心お智慧ありてろの工を爲るとみろの者十の幕をも
 て幕屋を造どりろの幕は麻の捻絲と青紫紅絲をもて巧にケ
 ルビムを織あて作れる者ありルろは幕は各々長二十八キユピ
 トろは幕は各々寛四キユピトろの幕は各々長一尺一ありニ面して
 ろは幕五箇を互お連ねあひせ又ろは幕五箇をたぐひに連ねあひ
 せさ一聯の幕は邊においてろの連絡處の端お青色の澤を造り又
 他の一聯の幕の邊おいてろの連絡處おみきを造り是一聯は
 幕に澤五十をつくりまた他は一聯は幕の聯絡處の邊おも澤五十
 をつくどりろは澤は彼ど此ど相對す面して金の鈎五十を切く
 りろの鈎をもてろは幕を彼ど此ど相連ねたきを一箇は幕屋どあ
 る古又山羊の毛をもて幕をつくりて幕屋は上のお天幕どあせりろ
 の造る幕は十一ありまろは幕は各々長三十キユピト、ろは幕は

のく 寛四ヤヒトにして十一の幕は寸尺同一ありたる幕
 五を一幅の連ねたる幕六を一幅の連ねたる幕の邊の
 て連絡處の離五十をのくり又次は連ねたる幕の邊の
 くれり又銅の鉤五十をつくりて天幕をつらねあはせて
 とみらしめ赤染の牡羊の皮をもて天幕の頂蓋をつくりて
 の上を雜の皮の蓋を設けたり○又合歡木をもて幕屋の
 をつくさるる板の長は十ヤヒト板の寛は一ヤヒト半
 板の二の押ありて彼と此と交指ふ幕屋の板には皆
 造りあせり又幕屋のため板を作さるる即ち南の
 板二十枚の二十枚の板の下を銀の座四十をつくり
 板の下も二の座ありてその二の押を承け彼板の下
 ありてその二の押を承くる幕屋の他の方すなはち
 ためも板二十枚を作り又幕屋の他の方すなはちの北

板は下も二の座あり彼板の下も二の座あり又幕屋の
 するのちろ西のために板六枚をのくり幕屋の後二
 め板二枚宛をのくり是れ二枚の下にて相合しる
 一の連なれり一箇の環に於て然りるは二枚とも
 等二隅れたため設けたる者あり是れ八枚あり座
 銀の座十六座あり各々板は下も二の座あり又合
 横木を作り即ち幕屋は此方の板のため五木を設け
 彼方の板のため横木五木を設け幕屋の後するは
 のため横木五木を設けたり又中間の横木をつくり
 中あいて端より端まで通らしめ而しての板を
 をもて之のため銀をつくりて横木を置き又横木
 金を着たり又青紫紅の緯および麻の摺緯をもて
 巧みクルヒムをその上織いだし是れを合歡木をもて

四本の柱を削くりてこきお金を着せたりろの鈎は金あり又銀を
もてこれおために座四を鑄たり毛又青、紫、紅の絲および麻の摺
織をもて幕屋の入口に掛る帳を織なしえろけ五木れ柱とろれ鈎
を造りろの柱は頭と桁お金を着せたり但しろけ五れ座は銅あ
りき

【第卅七章】 ベザレル合歡木をもて櫃をつくりろの長は二キユビ
ト半、ろの寛は一キユビト半、ろの高は一キユビト半、面して純金
をもてるの内外を蔽ひてろの上の周圍お金の縁を造れり又金
の環四箇を鑄てろの四の足につけたり即ち此旁お二箇の輪、彼旁
お二箇の輪を付く又合歡木をもて杠を作りてみれお金を着せ
ろの杠を櫃の旁の環おさしいれて之をもて櫃をりくべらし
む又純金をもて贖罪所を造りろの長は二キユビト半、ろの寛
は一キユビト半あり七又金をもて二箇のケルヒムを作り即ち

純めて打て之を贖罪所の兩傍に作りハ一箇のケルヒムを此方の
末お一箇のケルヒムを彼方の末お置り即ち贖罪所の兩傍おケル
ヒムを作りりケルヒムは翼を高く展べ其翼をもて贖罪所を掩
ひ其面をたぐひに相向く即ちケルヒムの面は贖罪所に向ふ又
合歡木をもて案を作り其長は二キユビト其寛は一キユビト其高
は一キユビト半、面して純金を之に着せ其周圍お金の縁をつけ
又其四圍お掌寛の邊を作り其邊の周圍お金の小縁を作りま而て
之お爲お金の環四箇を鑄其足の四隅お其環を付たり言即ち環は
邊の側お在て案を昇く杠を入る處ありま而て合歡木をもて案を
昇く杠を作りて之お金を着せたり又案の上の器具即ち皿匙杓及
び酒を置く盤を純金ふて作りま又純金をもて一箇の燈臺を造り
即ち槌をもて打て其燈臺を作り其臺座、軸、環、飾及び花は其お連る
六の枝の旁より出づ即ち燈臺の三の枝は此旁より出で燈臺

會れ幕屋の門にて役事をあすどゐるれば婦人等の鍔をもて之を作
 せり又庭を作せり南に於ては庭の南に方に百キユビトの細布
 の幕を設く十の柱に二十の座に二十ふして其に銅ありり
 柱の鉤および桁は銀なり北の方に百キユビトの幕を設く
 の柱は二十の座は二十ふして其に銅ありりの柱は鉤と桁に銀
 あり西の方の五十キユビトの幕を設くは柱に十の座に
 十の柱の鉤と桁に銀あり東においては東の方に五十キユビ
 トの幕を設く南にしては一傍に十五キユビトの幕を設く
 柱に三の座も三又の一傍に十五キユビトの幕を設く
 の柱に三の座も三、即ち庭は門に此傍彼傍ともお然り
 圍の幕にみる細布あり柱の座に銅柱の鉤と桁に銀柱の頭
 の銀あり庭の柱にみる銀は桁にて連る大庭の門の帳に青、紫、紅
 の絲および麻の撚絲をもて織ふしたる者なりその長は二十キユ

ビト、その寛おける高に五キユビトにして庭の幕と等し
 柱に四の座に四ふして其に銅の鉤に銀の頭の包と桁は銀
 なり幕屋およびその周圍の庭の釘はみな銅あり三幕屋あつた
 る物とあはち律法の幕屋あつける物を量る左のごとし祭司ア
 ロンに子イタマルモーセの命をあたさひてレビ人を率ゐ用ひて
 むを量とるあり三ユダの支派のホルの子あるウリの子、ペザレ
 ル凡てエホバのモーセに命じたまひし事等をなせり
 派のアヒサマクの子アホリアブ彼によもにありて
 し青、紫、紅の絲および麻絲をもて文繡をなせり聖所の諸の工
 作をなす用たる金は聖所のシケルにあたりて言は都合二十
 九タラント七百三十シケルあり是するはち献納たるどゐるの金
 あり會衆の中の核敷らるし者の献げし銀と聖所のシケルにあ
 たさひて言は百タラント千七百七十五シケルなり凡て獻らる

る者の中へ入し者即ち二十歳以上れ者六十歳三千五百五十人ありたきバ聖所のレケルあまたおひて言ひ一人に一ベカある是すあち半ケケルなり七百マラントの銀をもて聖所の座と幕は座を鑄たり百マラントをもて百座をけくきを一座するあち一マラントあり又千七百七十五ケルをもて柱の鈎をけくり柱の頭を包み又柱を連ねあせたり又獻納たるどころの銅の七十マラント二千四百ケルなり手是をもちひて集會は幕屋の門の座をけくり銅の壇どろの銅の網および壇は諸の器具をけくり庭の周圍の座と庭は門は座および幕屋の諸の鈎と庭の周圍の諸の釘を作さる

第三十節 青、紫、紅の絲をもて聖所にて職をなすどろの供職の衣服を製り亦アロンのためお聖衣を製りエホバのモーセお命じたまひしごとくせりニ又金、青、紫、紅の絲および麻は捻糸をも

てエホバを製りニ金を薄片お打展べ剪て織どあしふれを青、紫、紅の絲および麻絲に和てみさを織なし又みさをために肩帯をけくりて之を連ねろの兩の端あひて之を連ねエホバの上ありて之を束ぬるとあろの帯はろの物同しうして其の製のごとし即ち金、青、紫、紅の絲および麻の捻糸をもて製る者ありエホバのモーセに命じたまひしごとくあり又葱珥を琢て金の槽に嵌め印を刻みおどくニイスラエルの子等の名をみとお鐙けりもれをエホバの肩帯の上につけてイスラエルの子孫の記念の玉とみらしむエホバのモーセに命じたまひしごとし又また胸牌を巧み織なしエホバの製のごどくお金、青、紫、紅の絲および麻の捻糸をもてみさを製さる胸牌の四角おして之を二重おけくりなれを二重おしてろの長半キニヒトろの潤半キニヒトありろの中お玉四行を嵌む即ち赤玉、黄玉、瑪瑙の一行を第一行とす第二行

は紅玉青玉金剛石第三行の深紅玉白瑪瑙紫玉第四行の黃綠
 玉葱形碧玉凡て金の槽の中あふれを散たり古の玉ハイヌラニ
 ルの子等の名あまたあり其名のごとくあ之を十二あなし而して
 印を刻むごとくあろの十二の支派の各々の名をふれお鎧つけた
 り又純金を細のごとくお細たる錠を胸牌の上おつけたり又
 金をもて二箇の槽をつくり二の金の環をつくりろの二の環を胸
 牌の兩の端おつけたる金の細二條を胸牌の端の二箇の環おつ
 けたり大而してろの二條の細の兩の端を二箇の槽お結びエホデ
 の肩帯の上おりけてろの前おあらまひまた二箇の金の環をつく
 りて之を胸牌の兩の端おつけたり即ちろのエホデお對ふどふろ
 の内の邊おふれを付くまた金の環二箇を造りてふれをエホデ
 の兩傍の下の方おつけてろの前の方おてろの聯接る處お對てエ
 ホデの帯の上おあらしむ三胸牌の青紐をもてろの環およりて之

をエホデの環お結つけエホデの帯の上おあらしめ胸牌をしてエ
 ホデを離るよみどならしむ三又エホデに属する明衣ハ凡てふ
 れを青く織なせり明衣の孔いろの真中おありて金の鎖盤のご
 としろの孔の周圍お縁ありて旋びさらしむ而して明衣の裾お
 青紫紅の捻糸をもて石櫛を作りつけ又純金をもて鈴をつく
 りろの鈴を明衣の裾の石櫛の間おつけ周圍おあいて石櫛の間々
 あふれをにつけたり即ち鈴お石櫛鈴お石櫛と供職の明衣の裾の
 周圍おつけたりエホバのモーセに命したまひしごとし又アハ
 シどろの子等のためお織布をもて裏衣を製り細布をもて頭帽を
 製り細布をもて美しき頭巾をつくり麻の捻糸をもて揮をつくり
 元麻の捻糸および青紫紅の糸をもて帯を織みせりエホバのモ
 ーセお命じたまひしごとし又純金をもて聖冠の前板をつくり
 印を刻むごとくあろの上おエホバに聖といふ文字を書つけ三之

お青紐をつけて之を頭帽の上に結つたりエホバのモーセに命
 じたまひし如し○三斯集會の天幕ある幕屋の諸の工事成ぬイス
 ラエルの子孫エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくお爲て
 斯おみへり^三人衆幕屋と天幕と諸の器具をモーセの許に
 携へいたる即ちろの鈎ろの板ろの横木ろの柱ろの座^三赤染の牡
 羊の皮の蓋^三瘤の皮の蓋^三障蔽の幕^三律法の櫃とろの杠^三贖罪所^三案
 とろの詔の器具^三供前のパン^三毛純金の燈臺とろの蓋^三すあ^三れち陳列
 る燈臺とろの諸の器具^三ならびあろの燈火の油^三金の壇^三澁膏^三香幕
 屋の門の幔子^三銅の壇^三ろの銅の網とろの杠^三よびろの諸の器具
 洗盤とろの臺^三早庭の幕^三ろの柱とろの座^三庭の門の幔子^三ろの紐とろ
 の釘^三あらびお幕屋^三お用ふる諸の器具^三集會の天幕^三のためにお用ふる
 者^三聖所^三おて職^三をあすとみろの供職^三の衣服^三即ち祭司^三の職^三をあす
 時に用ふる者ある祭司^三アロン^三の聖衣^三よびろの子等の衣服^三三
 斯

エホバの凡てモーセに命じたまひしごとくはイスラエルの子孫
 ろの諸の工事をあせり^三モーセろの一切の工作を見るにエホバ
 の命じたまひしおどくに造りてあり即ち是のごとくお作りてあ
 きバモーセ^三人衆^三を祝せり

第四十章

第一節 エホバ、モーセに告て言たまひけるは正月の元

日に汝集會の天幕^三幕屋^三を建べし^三而して汝ろの中^三お律法の櫃
 を置^三幕をもてろ^三櫃を障蔽^三し^三又案^三を攜へ^三り^三陳設^三の物^三を陳
 設^三け^三且燈臺^三を攜へ^三りて^三ろの燈臺^三を置^三うべし^三汝また金の香壇^三
 を律法の櫃の前^三置^三幔子^三を幕屋の門^三に掛け^三燔祭の壇^三を集會
 の天幕の幕屋の門の前^三置^三え^三洗盤^三を集會の天幕とろの壇の間
 お置^三えて^三之^三お水^三をい^三き^三庭の周圍^三に藩籬^三をた^三て^三庭の門^三お幔子^三を
 垂^三き^三而して^三澁膏^三をど^三りて^三幕屋^三とろの中^三の一切^三の物^三お澁^三ぎ^三て^三其
 どのの諸の器具^三を聖別^三べし^三是聖物^三とあらん^三汝また燔祭の壇と

ろの一切の器具に膏をうまぎてろの壇を聖別べし壇は至聖物ど
 ろらん又洗盤どろの壺に膏をうまぎて之を聖別めまアロンど
 ろの子等を集會の幕屋の門につまきたりて水をもて彼等を洗ひ
 まアロンに聖衣を着せ彼を膏をうまぎてみきを聖別め彼をして
 祭司の職を我にみさまひべし言又るれの子等をつれきたりて之
 お明衣を着せまろの父おなせるごとくおの膏を灌ぎて祭司の
 職を我おあるさまひべし彼等の膏うまがれて祭司たるみどは代々
 變らざるべきありまモーセ行く行へり即ちエホバの己お命じた
 まひし如くお爲たりて第二年の正月おいたりてろの月の元日お
 幕屋建ぬま乃ちモーセ幕屋を建てろの座を置ろの板をたてろ
 の横木をさしみろの柱を立て幕屋の上お天幕を張り天幕の
 蓋をろの上にお得とみせりエホバのモーセお命じ給ひし如し辛而
 してられ律法をどりて櫃お藏め杓を櫃おつけ贖罪所を櫃の上お

置ろ三櫃を幕屋に攜へり障蔽の幕を垂て律法の櫃を隠せりエ
 ホバのモーセお命じたまひしごとし三彼また集會の幕屋におい
 て幕屋の北の方にてろの幕の外に案を置ろ三供前のパンをろの
 上にエホバの前に陳設たりエホバのモーセお命じたまひし如し
 言又集會の幕屋において幕屋の前の方に燈臺をおきて案おひの
 はしめ三燈臺をエホバの前おうまげたりエホバのモーセに命じ
 たまひしごとし又集會の幕屋においてろの幕の前に金の壇を
 居ろろの上に馨しき香を焚りエホバのモーセに命じたまひし
 ごとし又幕屋の門に幔子を垂れ三集會の天幕の幕屋の門に燔
 祭の壇を置ろろの上に燔祭と素祭をさまげたりエホバのモーセ
 に命じたまひし如し又集會の天幕どろの壇の間に洗盤をおき
 其お水をいれて洗ふみどの爲にす三モーセアロンおよびろの子
 等其につきて手足を洗ふ三即ち集會の幕屋に入る時または壇に

近づく時に洗ふことをせりエホバのモーセに命じたまひしこと
 し置きた幕屋と壇の周口の庭に藩籬をたて庭の門に幔子を垂ぬ
 是れモーセの工事を竣たり言指て雲集會の天幕を蓋てエホバの
 榮光幕屋に充たり置モーセは集會の幕屋に在ることを得たりき
 是雲の上の止り置エホバの榮光幕屋に在たればあり雲幕屋
 の上より昇る時々はイスラエルの子孫途に進めり其途々凡て然
 りも然ど雲の昇らざる時に在る日まで途を進むことをせ
 ざりき云即ち晝は幕屋の上エホバの雲あり夜在るの中火あ
 りイスラエルの家の者皆これを見るの途々すべて然り

